

平成 24 年度事業報告書

1. 学校法人の概要

建学の精神

【建学の精神】

創立者高山紀齋の進取の気性、開拓精神によって本学は創立され、それを受け継いだ建学者血脇守之助は、学問のみならず歯科医学及び歯科医療における人本主義の教育理念を確立するために心血を注いだ。すなわち血脇は、自身が唱えた「歯科医師たる前に人間たれ」という言葉に集約されるように、歯科医師としての知識や技術だけでなく、社会性、国際性を身につけ、人間的に優れた良識豊かな歯科医師を養成することの重要性を強調して、教育の原点ともいえる人本主義を掲げていたのである。

この考えは教育面での学生一人ひとりを大切にする指導理念となり、本学の建学の精神として、教育・研究・臨床のそれぞれの分野で 120 有余年の間、代々に引き継がれて現在に至っている。

【将来に向けてのビジョン】

人間性豊かな歯科医療人養成の社会的要請に応えるべく、建学の精神(理念)を継承しながら、これからの社会的なニーズの中で歯科大学としての使命を果たすために、高機能で先導性のある歯科大学を目指し、その環境において有為な人材育成を行う。その一環として平成 22 年に創立 120 周年を迎えたことを契機に、記念事業として建学の地、水道橋にメインキャンパスを移転する計画を進めている。また、グローバル化の流れに対応するべく、教育・研究・診療の各分野において国際交流を図る。

学校法人の沿革

明治 23 年	1 月 (1890)	高山紀齋芝区伊皿子町(現港区)に高山歯科医学院創立
明治 32 年	12 月 (1899)	高山紀齋 血脇守之助に学院の全てを委譲
明治 33 年	2 月 (1900)	高山歯科医学院を東京歯科医学院に改称、同時に神田小川町の東京顕微鏡院内に移転
明治 34 年	2 月 (1901)	東京歯科医学院の校舎を神田三崎町に移転
明治 40 年	9 月 (1907)	東京歯科医学専門学校設置認可
明治 41 年	9 月 (1908)	東京歯科医学専門学校附属病院開院
大正 9 年	3 月 (1920)	血脇守之助の寄付により財団法人認可
昭和 4 年	11 月 (1929)	水道橋校舎新築落成
昭和 21 年	7 月 (1946)	東京歯科大学(旧制)認可
昭和 24 年	9 月 (1949)	東京歯科大学歯科衛生士学校開校
昭和 26 年	9 月 (1951)	財団法人から学校法人への組織変更認可
昭和 27 年	2 月 (1952)	学校教育法により新制東京歯科大学となる
昭和 30 年	1 月 (1955)	東京歯科大学進学課程設置認可
昭和 33 年	3 月 (1958)	東京歯科大学 大学院歯学研究科(博士課程)の設置認可
昭和 42 年	2 月 (1967)	東京歯科大学市川病院、総合病院として認可
昭和 51 年	12 月 (1976)	東京歯科大学歯科衛生士学校は東京歯科大学歯科衛生士専門学校として認可
昭和 56 年	9 月 (1981)	東京歯科大学千葉校舎開校。東京歯科大学千葉病院開院、東京歯科大学病院を東京歯科大学水道橋病院に改称
昭和 62 年	4 月 (1987)	東京歯科大学市川病院を東京歯科大学市川総合病院に名称変更

平成 元年	4 月 (1989)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校千葉校開校
平成 2 年	3 月 (1990)	水道橋校舎 (TDC ビル) 竣工、4 月 新水道橋病院開院
平成 8 年 1 0 月	(1996)	東京歯科大学口腔科学研究センター開所式開催
平成 1 2 年	1 月 (2000)	脳科学研究施設 (口腔科学研究センター) 開所
平成 1 3 年	7 月 (2001)	東京歯科大学市川総合病院角膜センター・アイバンクビル竣工
平成 1 4 年	3 月 (2002)	東京歯科大学市川総合病院リプロダクションセンター・放射線棟開所
平成 1 5 年 1 2 月	(2003)	東京歯科大学歯科衛生士専門学校、修業年限・教育課程 3 年制移行承認
平成 1 7 年 1 0 月	(2005)	歯科医学教育開発センター開設
平成 1 8 年	4 月 (2006)	東京歯科大学口腔がんセンター開設
平成 2 4 年	2 月 (2012)	東京歯科大学さいかち坂校舎竣工
平成 2 4 年	4 月 (2012)	東京歯科大学さいかち坂校舎開校

設置する学校・学部・学科等			(平成 25 年 3 月 31 日現在)
理事長 金 子 譲			
設置する学校	学部・研究科等	設置認可年月	
東京歯科大学	歯学部	昭和 27 年 2 月 20 日	
〃	大学院歯学研究科	昭和 33 年 3 月 25 日	
所在地 千葉県千葉市美浜区真砂 1 - 2 - 2			
学長 井 出 吉 信			
東京歯科大学歯科衛生士専門学校	歯科衛生科	平成 元年 3 月 31 日	
所在地 千葉県千葉市美浜区真砂 1 - 2 - 2			
校長 石 井 拓 男			

役員及び教職員に関する情報
役員については、平成 25 年 3 月 31 日現在で理事 9 人、監事 2 人が現員であり、理事の中から常務理事が理事長を含めて 4 人選任されている。評議員については、同日現在で 40 人が現員であり、そのうち法人職員からの選出が 12 名（歯科衛生士専門学校長 1 名を含む）、本学卒業者からの選出が 18 名、学識経験者からが 10 名となっている。
(平成 25 年 3 月 31 日現在)

		定員数	現員数
役 員	理 事	7 ～ 9 名	9 名
	監 事	2 名	2 名
	評 議 員	3 5 ～ 4 0 名	4 0 名

(平成 24 年 5 月 1 日現在)				
	法人本部	東京歯科大学	東京歯科大学 歯科衛生士専門学校	合 計
教 員	-	3 1 8 名	6 名	3 2 4 名
職 員	4 名	9 6 1 名	1 名	9 6 6 名

9 6 1 名のうち 5 7 0 名は附属病院の看護師である。

2. 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

主な事業の目的・計画

1. 大学の水道橋移転計画を遂行する。
2. 教育では、各学年ともカリキュラムに基づいたきめ細やかな教育を行い、受験生にとって魅力ある歯科大学として本学の特色をアピールし、受験生確保を目指す。
3. 研究では、口腔科学研究センターを研究拠点に総合的な研究に取り組む。
4. 病院では、地域医療への貢献に取組み、学生への診療参加型臨床実習教育を実施する。
5. 他大学との連携により、教育・研究・臨床の更なる発展に努める。

進捗状況

1. 東京歯科大学さいかち坂校舎が平成 24 年 4 月より、新入生を迎えて稼働を始めた。水道橋病院を含む本館（仮称）の改修工事が平成 25 年 2 月 28 日に完了し、新館（仮称）の新築工事についても平成 25 年 7 月の竣工へ向けて順調に進捗している。
2. きめ細やかな教育の結果、第 106 回歯科医師国家試験（平成 25 年 2 月実施）において、全国 29 大学（国公立含む）中で合格率、合格者数ともに 2 年連続 1 位の成績を上げることができた。また受験生確保については、本学の教育内容を広くアピールすることにより、平成 25 年度入試においても多くの受験者数を確保することができた。東京歯科大学授業料等減免に関する規程を整備し、「学資ローン」「利子補給奨学金」制度の運用を引き続き行うことにより、学生・保護者への経済的支援を強化に努めた。海外姉妹校の施設見学、学生交流等を行う「elective study」プログラムを推進した。従来から推進しているがんプロフェッショナル養成基盤推進プランの遂行に加え、私立大学教育研究活性化設備整備事業及び基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成事業（歯学教育認証制度部門）に採択された。
3. 研究面では、HRC 第 8 プロジェクトを遂行したほか、学外競争的資金獲得に努めた。
4. 各病院では、地域の中核病院として地域社会への貢献に努め、また歯科医師臨床研修、学生の診療参加型臨床実習教育を実施した。

千葉病院では、病院財政の収入基盤である医療収入が、約 7 割の診療科で前年よりも増収となり、全体としては過去最高の 26 億 1,291 万 8,442 円（対前年比 103.06%）の医療収入額となった。患者数も入院は若干減少したものの、外来においては年々増加傾向を示している。これは地域社会への歯科医療の提供病院また専門性の高い歯科病院として、千葉病院の医療連携活動等が着々と成果を上げていることを示していると思われる。併せて口腔がん検診、摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科の訪問歯科診療など、社会性の高い医療活動が順調に拡大されてきている。また、関連施設病院との医療支援の協力体制も着々と充実化している。

経費削減策も年々順調に推移し、平成 21 年度からの SPD 業務委託導入に伴い、同種同等品の統一や文具・日用品の安価品への切り替え、在庫削減を継続的に行うなど、教職員のコスト意識がより強化され、医療経費率は前年度と比較し、27.34%から 26.77%へと 0.54%改善された。

市川総合病院では、平成 24 年 4 月の診療報酬改定による DPC 機能評価係数見直しにより施設基準係数の低下があったが、感染防止対策加算 1、感染防止対策地域連携加算、病棟薬剤業務実施加算等新たな取り組みを実施・届出を行った。また、ICU、HCU 病床稼働率については、前年同レベルであったが、ベッドコントロールの強化、2 次救急の受け入れ開始に伴い小児病床、有料個室、一般病床ともに病床稼働率を上昇させることができた。平成 25 年 1 月から 2 次救急の受け入れを開始し、地域の中核病院としての役割を果たした。また、災害時に必要とされる医療用電力を自前で確保するためのインフラ整備を行った。

水道橋病院では、大学機能の水道橋移転に伴う病院改修は内科・眼科も含め平成 25 年 2 月をもって終了した。なお、3 階総合歯科診療室については、全面改修に方針転換され最新式の診療室に生まれ変わった。これにより病院全体の診療チェアは 111 台となった。年度当初は、前年に比べ診療チェア数が極端に少ない中で診療を行っていたが、口腔外科改修工事が終了した後は、医療収入も回復し予算には達しなかったもの次年度につながる実績を上げた。首都圏開業歯科医院からの困難処置症例を多数受け入れるなど、後方支援病院として地域歯科医療分野での役割を果たした。平成 24 年度の初診紹介患者は、15,064 名で紹介率は、40.3%であった。昨年に引き続きカルテ記載 WS を開催するとともに臨床研修指導歯科医のための WS を開催し、教育病院としての教員の FD の推進を図った。

5. 教育・研究・臨床において相互に交流を深め、連携し、歯学・医学の進歩と発展に向けて、学術活動を推進する目的で慶應義塾大学医学部と連携協定を締結した。国際的視野を持った医療人を育てる場をさらに増やすため、ロチェスター大学と姉妹校を締結した。

(2) 教育研究の概要

教育研究上の基本となる組織に関する情報

本学は、歯学部歯学科、大学院歯学研究科（博士課程）を設置している。また、歯科臨床実習及び臨床研究に関する附属施設として 3 つの附属病院を付設しているほか、歯科医学教育開発センター、口腔科学研究センター、口腔がんセンター、角膜センターを付設している。

大学等	学部・研究科等	学科	課程等
東京歯科大学	歯学部	歯学科	
	大学院歯学研究科		博士課程
東京歯科大学歯科衛生士専門学校		歯科衛生科	

教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

(平成24年5月1日現在)

大学等	学部・研究科等	学科	教員数
東京歯科大学	歯学部	歯学科	316名
	大学院歯学研究科		176名
【教員の保有学位】 教員の保有学位としては、博士（歯学）、博士（医学）、博士（薬学）、博士（学術）、博士（農学）、博士（理学）、博士（工学）、修士（日本学）、修士（薬学）、修士（社会科学）、修士（理学）、修士（英文学）、修士（文学）がある。 (平成24年5月1日現在)			
東京歯科大学歯科衛生士専門学校	歯科衛生科		6名
【教員の保有学位】 教員の保有学位としては、学士（教養）、専門士（医療専門課程）がある。 (平成24年5月1日現在)			

学生に関する情報

<東京歯科大学 歯学部>

【入学に関する基本的な方針】 建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を基本に、人物・学力ともに優秀で、将来、国民医療に貢献する歯科医療担当者としての能力・適正を十分に有するものを求めている。 1. 医療人としての倫理観や高い人間性を、常に向上心をもって追求しようとする意欲のある者 2. 歯科医学を学ぶための十分な資質と基礎学力を有する者 3. 口腔の健康管理を通じ、国民医療に貢献しようとする意欲のある者 4. 問題解決能力や変革意欲の高い者 5. 他者との協調性を大切にできる者				
入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	卒業後進路
133名 (編入学5名含む)	840名 1年次 140名 2年次 140名 3年次 140名 4年次 140名 5年次 140名 6年次 140名	824名 1年次 132名 2年次 142名 3年次 150名 4年次 122名 5年次 131名 6年次 147名	131名	臨床研修歯科医 127名 上記以外の者 4名
平成24年5月1日現在			平成25年3月31日現在	平成25年5月1日現在
【卒業後の進路】 歯学部卒業後、歯科医師国家試験に合格した者は、歯科医師法に基づく臨床研修を1年間受ける。卒業生の多くが本学の3病院（千葉病院・市川総合病院・水道橋病院）で研修する。その後、大学院等に進学して研究者の道を志す者、勤務医となる者、開業する者等、その道は様々である。				

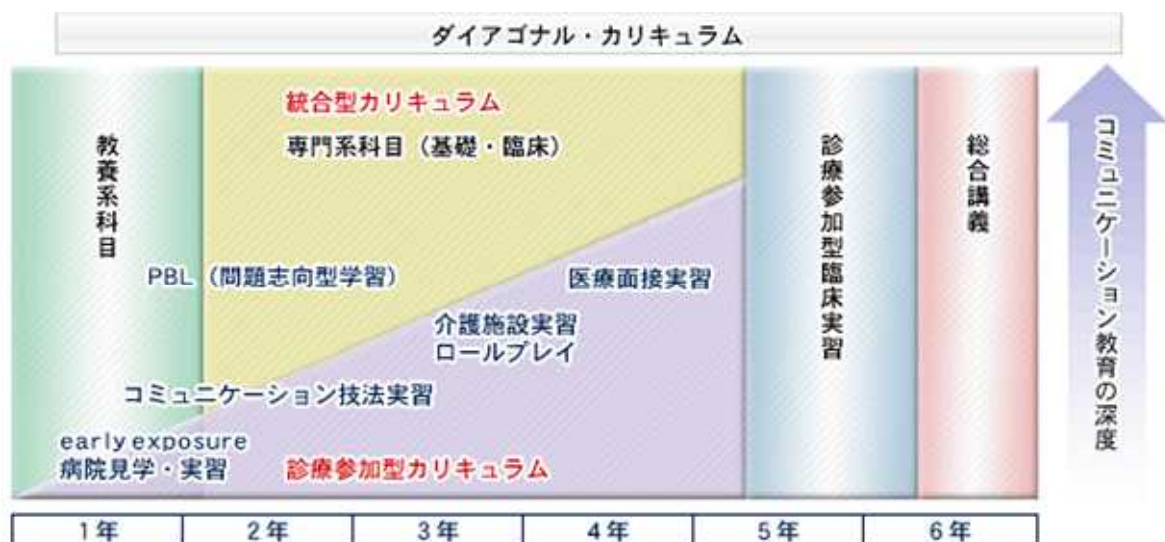
< 東京歯科大学 大学院歯学研究科 >

【入学に関する基本的な方針】 歯学研究科では、次のような「研究指導者をめざす学生」ならびに「高度な専門知識を備えた専門職業人をめざす学生」を求めている。 １．人類の持続的発展に貢献するために強い学術的関心と幅広い視野を持つ人 ２．国際的視野と高度な専門知識・語学力を身に付け、人類福祉の増進に寄与したい人 ３．既成の価値観にとらわれず、自ら問題を発見し、解決しようとする力を備えている人 ４．将来研究指導者または高度専門職業人として国際的に活躍したいという意欲のある人				
入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	修了後進路
36名	136名 1年次 34名 2年次 34名 3年次 34名 4年次 34名	147名 1年次 37名 2年次 36名 3年次 36名 4年次 38名	38名	就職者 32名 専修科 6名
平成 24 年 5 月 1 日現在			平成 25 年 3 月 31 日現在	平成 25 年 5 月 1 日現在

< 東京歯科大学歯科衛生士専門学校 歯科衛生科 >

【入学に関する基本的な方針】 歯科医療従事者としての能力・適性がある者。 歯科医療従事者の一員として社会に貢献しようとする意欲のある者。				
入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	修了後進路
45名	120名	134名	44名	就職 41名
平成 24 年 5 月 1 日現在			平成 25 年 3 月 31 日現在	平成 25 年 3 月 31 日現在
【卒業後の進路】 歯科衛生士国家試験に合格した卒業生が、病院、企業、診療所等へ就職している。				

教育課程に関する情報



教養系

心理学	物理学(基礎・一般)	科学英語	数学Ⅰ
生命倫理	化学(基礎・一般)	歯科医学英語	歯科基礎数学
社会福祉	生物学(基礎・一般)	歯科医学英語講読	医療統計学
医療法学	理科実習	独語	歯科医学概論(歯科医学
美術	自然科学演習	中国語	史)
哲学	実用日本語	韓国語	情報科学
経済学	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	健康学	人類学
		体育実技	

専門系

【基礎系科目】		【臨床系科目】	
解剖学・同実習	微生物学・同実習	歯内療法学・同実習	オーラルメディシン
口腔解剖学・同実習	口腔微生物学	歯周療法学・同実習	口腔インプラント学
組織学・同実習	薬理学・同実習	保存修復学・同実習	臨床検査学
口腔組織学・同実習	歯科薬理学	口腔外科学・同実習	内科学
生理学・同実習	歯科理工学・同実習	歯科補綴学総論	外科学
口腔生理学	衛生学・同実習	有床義歯補綴学・同実習	小児科学
生化学・同実習	口腔衛生学・同実習	クラウンブリッジ補綴学・同実習	整形外科学
病理学・同実習	法歯学	同実習	産婦人科学
口腔病理学・同実習	社会歯科学	歯科矯正学・同実習	眼科学
		歯科放射線学・同実習	耳鼻咽喉科学
		小児歯科学・同実習	皮膚科学・形成外科学
		歯科麻酔学・同実習	精神科学

【統合型科目】

人間生物学	生命現象と物質実習	歯科医療管理学	課題講義(スポーツ歯学、
生体の科学	細胞分子生物学	(社会保障制度・医療倫理・口腔の機能と感覚、咬合と	
歯科基礎科学	歯科臨床概論	医療安全管理)	顎機能異常、唾液の機能と
生物の構造と機能	発生病態学		唾液腺関連疾患、摂食・嚥
			下、訪問歯科、医療管理)

【コミュニケーション教育】

病院見学	患者誘導実習	総合予診シミュレーション実習
患者体験・健診記録実習	介護施設実習	医療面接シミュレーション実習
コミュニケーション技法実習		

本学は、建学の精神である「歯科医師である前に人間たれ」を基本に、歯科医師としての知識・技能だけでなく、コミュニケーション能力の向上と高い倫理観の醸成を柱とした教育課程を編成している。また、他領域との連携やグローバルな規模で活躍できる人材を育成するため、問題基盤型学習やグループ討論を通じて、積極性・能動性・協調性を伸ばす教育課程を編成している。この教育課程を通じて、歯科医師としての基本的な知識、技能、態度を修得するとともに、生涯研修・研究を行う態度、問題発見・解決能力を身につけることを学位授与の方針としている。評価にあたっては、専門教員による厳格なブラッシュアップを受けた試験問題を利用し、データベース管理により一元的な管理を実施、6年間一貫した総合学力試験による総括的評価を行っている。

【教養系科目】

教養系科目では、高度な教養と豊かな人間性を養い、歯科医学専門科目を十分に理解するために必要な基礎知識の総合的習得を目標としている。

一般教養科目、外国語科目、保健体育科目、基礎教育科目によって構成され、理科・数学系科目では、コース別授業や理解度別の授業を実施し、個々の習熟度に対応する柔軟なカリキュラムとなっている。また、情報科学入門では、PC活用スキルや情報倫理を学習し、本学の充実したIT環境を活用する能力を伸ばしている。

【歯科医学専門科目】

歯科医学専門科目では、適切な歯科医療を遂行するための専門的な知識と技術、幅広い知識を習得することを目標とし、さらに社会の福祉に貢献できる豊かな人間性の育成を目指している。授業では、画像・動画を活用したデジタルコンテンツも多く活用され、人体のしくみやはたらき、物質の代謝、病気が発生する原因とメカニズムなどの現象を理解しやすいよう工夫されている。臨床系科目では、疾病に対する正確な検査・診断法を学ぶとともに、新しい歯科医療材料や方法を応用した治療法など、高度な歯科医療行為を行うための知識と基礎技術を最新の実習器材を用いて学習している。臨床の基本的な技能を学習する臨床基礎実習室には、多彩な視聴覚機能・実習設備とコンビ

ユータ支援によるシミュレーションシステムが備えられ、実際の診療に即した技能を身につけられる。実習においては学生対教員の比が平均 8 対 1 という少人数指導体制で、密度の高い教育が実践されているのが特徴である。

【統合型科目】

平成 12 年度に教養系と専門系の融合による統合カリキュラム「人間生物学」をスタートさせたのを皮切りに、教養と専門の統合科目である「細胞分子生物学」「生体の科学」「歯科基礎科学」、基礎と臨床の統合科目である「歯科臨床概論」「発生病態学」等を順次導入している。これらにより、各科目で学習する内容を統合し、それぞれの科目を関連付けて横断的に理解し、実際の臨床の現場に応用できるようにしている。

【PBL（問題志向型学習）】

PBL（Problem Based Learning）の手法を積極的に導入し、自ら問題を発見し、解決法を見出す学習法により、患者の心理や全身状態に配慮した総合的診断能力を身につけられるように取り組んでいる。これは、1,2 年の低学年から（「新入生学外セミナー」「歯科臨床概論」）3~5 年の高学年に至るまで（「発生病態学」「医療倫理」「課題講義」）継続的かつ段階的に実施し、生涯学習へとつながる能動的学習習慣を身につけられるように配慮されている。

【コミュニケーション教育（態度教育）】

医療の根幹をなすのは患者と医師・歯科医師との十分な信頼関係であり、その基盤の上に立ちつつ優れた知識と技能を持つ医療者となって初めて全人的医療、すなわち患者の立場に立った、患者の心を思いやる医療が可能となる。本学では、高度な知識・技術のみならず、良き医療人としての態度を身につけた歯科医師を輩出するため、コミュニケーション教育（態度教育）の充実を図っている。コミュニケーション教育を実施するにあたっては、短期集中型の講義・実習では人間形成の点から良質な成果を望むことは難しいので、在学中のすべての年次において何らかの形で段階的・継続的かつ漸増的に行われるようなカリキュラムが組まれている（コミュニケーション教育におけるダイアゴナル・カリキュラム）。その教育内容は、様々な形態の学習とこれに対する学内外からの多面的評価によって行われ、1 年次から 6 年次まで時期、レベルに応じた教育が行われている。

【臨床実習（診療参加型臨床実習）】

臨床実習は、第 5 学年から始まり、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院での臨床講義、示説、見学その他、教員によるマンツーマンの指導のもと、直接患者を担当する診療参加型の実習を行っている。多くの患者が来院され、豊富な症例を体験できる環境が整っている。特に、市川総合病院における臨床実習は、歯学部学生が一般医学臨床部門の見学と示説を通して一般医学知識を習得することを目標としており、本学の特色の一つとなっている。また、歯科・口腔外科（オーラルメディシン・口腔外科学講座）では、全身疾患を有する患者の歯科・口腔領域における治療の実際を習得するための臨床実習を行っている。

3 病院それぞれの特色を生かした臨床実習カリキュラムは他歯学部にも例をみない本学独自のものであり、本学の歯科医学教育に対する姿勢を如実に示すものである。

平成 2 4 年度は、下記の日程で授業・試験等が行われた。

平成 2 4 年度学年暦

年 月 日	曜	行 事 予 定
平成 2 4 年 4 月 2 日	月	5 年生オリエンテーション・登院器材刻印・検査 5 年生登院式
5 日	木	入学式
6 日	金	新入生オリエンテーション・学内見学 2・3・4 年生オリエンテーション
9 日	月	1・2・3・4 年生前期授業開始
5 月 1 日	火	1～4 年休講日(4/28～5/6 連休)
2 日	水	
6 月 5 日	火	6 年生第 1 回総合学力試験(6 日(水)まで)
7 日	木	1 年生健康診断
1 5 日	金	実験動物供養祭(千葉校舎)(3 年生)
2 0 日	水	
2 2 日	金	1 新入生学外セミナー 2 振替授業(木曜日分)
7 月 2 日	月	
1 0 日	火	振替授業(金曜日分)
1 1 日	水	夏期休暇 開始
8 月 3 1 日	金	夏期休暇 終了
9 月 1 日	土	5 年生第 1 回総合学力試験
3 日	月	1・2・3・4 年生授業再開 6 年生第 2 回総合学力試験(4 日(火)まで)
1 4 日	金	1・2・3・4 年生前期授業終了
2 0 日	木	1・3・4 年生前期定期試験(28 日(金)まで) 2 年生前期定期試験(27 日(木)まで)
1 0 月 1 日	月	1・2・3・4 年生後期授業開始
2 5 日	木	振替授業(金曜日分)
2 6 日	金	
2 9 日	月	1 第 4 4 回東歯祭(準備・後片付けを含む) 2 振替授業(月曜日分)
3 0 日	火	
3 0 日	火	6 年生第 3 回総合学力試験(31 日(水)まで)
1 1 月 1 0 日	土	推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、 編入学 A、学士等特別選抜 A 振替授業(金曜日分)
2 1 日	水	
1 2 月 1 7 日	月	1 1・2・3・4 年生前期追・再試験
2 0 日	木	
2 5 日	火	2 冬期休暇
平成 2 5 年 1 月 7 日	月	
8 日	火	1・2・3・4 年生授業再開 6 年生第 4 回総合学力試験(9 日(水)まで)
1 5 日	火	振替授業(月曜日分)
1 9 日	土	大学入試センター試験(20 日(日)まで)
2 9 日	火	1・2・3・4 年生後期授業終了
2 月 2 日	土	一般入学試験(期)、センター利用入試(期)
7 日	木	1・2・3・4 年生後期定期試験(15 日(金)まで)
1 2 日	火	本学創立記念日
1 6 日	土	5 年生第 2 回総合学力試験
1 8 日	月	4 年生総合学力試験
1 9 日	火	1 年生総合学力試験
2 0 日	水	4 年生共用試験(CBT)
2 1 日	木	2 年生総合学力試験
2 2 日	金	3 年生総合学力試験
2 4 日	日	4 年生共用試験(OSE)(前日 23 日テストラン)
2 8 日	木	1・2・3・4 年生後期追・再試験(3 月 5 日(火)まで)
3 月 2 日	土	5 年生総合学力追・再試験
9 日	土	一般入学試験(期)、センター利用入試(期)
		編入学 B、学士等特別選抜 B 試験
1 1 日	月	3・4 年生総合学力追・再試験
1 2 日	火	1・2 年生総合学力追・再試験
1 3 日	水	4 年生共用試験(CBT)追・再試験
1 5 日	金	第 1 1 8 回卒業式

学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・研究科等	修業 年限	必要修得 単位数	取得可能な 学位及び専攻名称
東京歯科大学	歯学部	6 年	別表 A に表示	学士（歯学）
	大学院歯学研究科	4 年	別表 B に表示	博士（歯学）
東京歯科大学 歯科衛生士専門学校	歯科衛生科	3 年	1 2 1 単位	専門士（医療専門課程）

A．歯学部科目履修方法

1．教養科目及び履修単位数と授業料時間数

(1)教養科目及び履修単位数

授 業 科 目		必 修	選 択	備 考
一 般 教 育 科 目	社会科学関係科目 人文科学・	心 理 学	4	
		生 命 倫 理	2	
		社 会 福 祉	2	
		法 学	2	
		美 術	2	
		哲 学		2 単位選択
		社 会 学	2	
		経 済 学	2	
	自然科学関係科目 自然科学	物 理 学	2	
		化 学	2	
		生 物 学	2	
		理 科 実 習	1	
		自然科学演習	3	
外 国 語 科 目		英 語	8	
		独 語	4	
保 健 体 育 科 目		健 康 学	2	
		体 育 実 技	2	
基 礎 教 育 科 目		数 学	3	
		歯科医学概論	2	
		教養セミナー	1	
		人 類 学	2	
		統 計 学	2	
		人間生物学	2	
		情 報 科 学	2	
		細胞分子生物学	4	
		生体の科学	1	
		歯科基礎科学	1	
		生物の構造と機能	2	
		生命現象と物質実習	1	

(2)専門教養科目及び授業料時間数

授 業 科 目		授業時間数
解剖学 ()	解 剖 学 ・ 同 実 習	168
	口腔解剖学・同実習	96
解剖学 ()	組 織 学 ・ 同 実 習	72
	口腔組織学・同実習	72
	口 腔 病 理 学 ()	24
生 理 学	生 理 学 ・ 同 実 習	96
	口 腔 生 理 学	48
生 化 学	生 化 学 ・ 同 実 習	120
病 理 学	病 理 学 ・ 同 実 習	96
	口腔病理学()・同実習	96
微 生 物 学	微 生 物 学 ・ 同 実 習	96
	口 腔 微 生 物 学	24
薬 理 学	薬 理 学 ・ 同 実 習	96
	歯 科 薬 理 学	24
歯科理工学	歯科理工学・同実習	120
衛 生 学	衛 生 学 ・ 同 実 習	72
	口腔衛生学・同実習	72
内 科 学	内 科 学 ・ 診 断 学 同 臨 床 示 説	48
外 科 学	外 科 学 同 臨 床 示 説	48
歯科保存学	歯内療法学・同実習	120
	保存修復学・同実習	144
歯 周 病 学	歯周療法学・同実習	96
口腔外科学	口腔外科学・同実習	120
歯科補綴学	有床義歯補綴学・総義歯学 実習	168
	局部義歯学実習	96
	歯科補綴学総論	24
	クラウンブリッジ補綴学・ 同実習	144
歯科矯正学	歯科矯正学・同実習	96
歯科放射線学	歯科放射線学・同実習	60
小児歯科学	小児歯科学・同実習	96
歯科麻酔学	歯科麻酔学・同実習	60

法 歯 学	法 医 学 ・ 法 歯 学	24
オーラルメディシン・ 口腔外科学	オーラルメディシン	24
口腔インプラント学	口腔インプラント学	48
社会歯科学	社 会 歯 科 学	24
講 座 外	関連臨床医学・同示説	72
総 合	課 題 講 義	117
	コミュニケーション学	51
	歯科臨床概論	27
	歯科医学英語講読	24
	発 生 病 態 学	24
	社 会 保 障 制 度	15
	臨 床 検 査 学	27
	歯 科 医 療 管 理 学 (医療倫理・医療安全管理)	24
	総 合 講 義	390
臨 床	臨 床 実 習	1,296

専門教育科目の総授業時間数は、4,800 時間以上とし、これを超えて授業する場合の増加時間は、おおむね 600 時間を限度とする。

2．単位の算定及び履修方法

(1) 単位は、次の算定基準によりこれを計算する。

講義については、教室内における 1 時間の講義に対して教室外における 2 時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週 2 時間(90 分)15 週の講義をもつて 2 単位とする。

演習については、教室内における 2 時間の演習に対して教室外における 1 時間の準備のための学修を必要とするものとし、毎週 2 時間(90 分)15 週の演習をもつて 1 単位とする。

実習実技等については、すべて実習室、運動場等で行われるものとし、毎週 3 時間 15 週の実習又は実技をもつて 1 単位とする。

(2) 必修科目は、その全部を履修しなければならない。

(3) 選択科目の履修については、毎年所定の期間中に届け出なければならない。

(4) 専門教育科目の履修方法は、講義については 1 回の時間を 90 分とし、実習については、1 回の時間を 3 時間とする。

B．大学院歯学研究科科目履修方法

学生は4年以上在学し、主科目・選択科目を合わせて30単位以上を履修し、更に独創的研究に基づく学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげたものについては、大学院に3年以上在学すれば足りるものとする。

歯学研究科では、特定の分野について専門的な知識の習得に限らず、関連する分野についても十分な知識を得て研究を進められるようカリキュラムが組まれており、平成23年度入学者より主科目以外に必修科目を設置した。

必修科目	選択科目
・(所属講座・研究室の)「主科目」 ・「研究情報学・医療統計学」 (1年次前期:4月~9月) ・「細胞学・材料学」 (1年次後期:10月~1月) ・「病態学」 (2年次前期:4月~9月) ・「咬合学」 (2年次後期:10月~1月)	・(他講座・研究室での)「副科目」 ・「大学院セミナー」 (通年:学内外の講師によるセミナー) (前期には、「再生医療」をテーマとしたセミナーを10回実施) ・「論文の書き方」(後期開講) ・「大学院指導教員による講義」(通年) 基礎系、保存・補綴系 外科系、育成系、総合臨床系 から必要な講義を受講する ・「ベーシックセミナー」 (12月~1月頃、機器・施設単位で開講) 口腔科学研究センターの機器・施設使用に関するセミナー

学習環境に関する情報

東京歯科大学歯学部および大学院歯学研究科の3つのキャンパスは、千葉、市川、そして水道橋にある。3キャンパスそれぞれの附属病院は、臨床教育施設としての役割を担っている。

平成24年度より、キャンパスの拠点を段階的に千葉から水道橋に移し、東京という地の利を生かした学習環境の構築を進めている。

【水道橋キャンパス】

水道橋本館校舎（仮称）

所在地： 東京都千代田区三崎町2 - 9 - 18

主な交通手段：

ＪＲ水道橋駅下車→東口改札口を出て右手すぐ

都営地下鉄三田線 水道橋駅下車→「A2」出口を出て、ＪＲ水道橋駅方面 徒歩1分

キャンパスの概要： 7つの歯科診療科および内科・眼科の9診療科、111台の歯科診療台と20床の入院病床を有する、最先端の施設・設備を取り入れた都市型拠点病院である。水道橋への移転を控え、学生の臨床教育、歯科医師臨床研修の場としても更なる発展を続けている。

さいかち坂校舎

所在地： 東京都千代田区神田駿河台2 - 9 - 7

主な交通手段：JR 御茶ノ水駅下車 御茶ノ水橋口より徒歩5分

キャンパスの概要： 地下1階、地上8階建てで地下1階と3階に学生ラウンジ、1階に事務室、2階に中講義室、4階に第1講義室、5階にウェット実習室、6階にドライ実習室、7階に図書館、8階に教授室や学生相談コーナーを配置し、今年度より新入生（1年次）が講義・実習を行っており、来年度以降は、1・2年次のメインキャンパスとなる。

【千葉キャンパス】

所在地： 千葉県千葉市美浜区真砂1 - 2 - 2

主な交通手段：

ＪＲ稲毛駅下車→千葉海浜バス（1番乗場）「稲毛海岸駅行き（歯科大経由）」乗車→東京歯科大東門下車（所用時間：約10分）

ＪＲ稲毛海岸駅下車→千葉海浜バス（4番乗場）「稲毛駅行き（歯科大経由）」乗車→東京歯科大東門下車（所用時間：約10分）

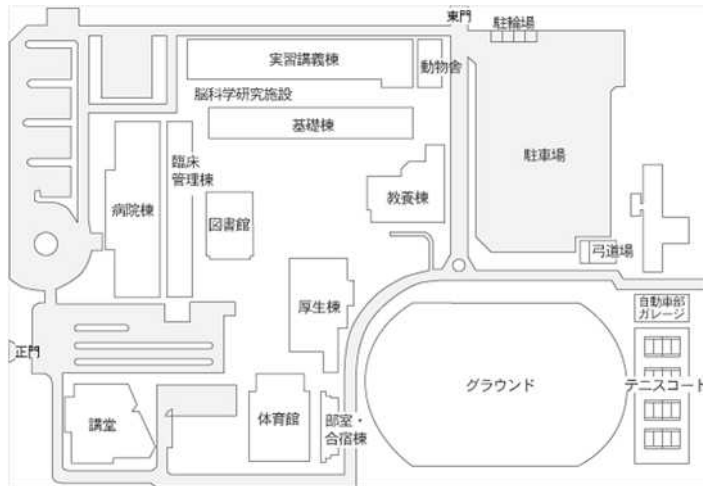
京成稲毛駅下車→徒歩約15分

キャンパスの概要： 教養棟（2年次）実習講義棟・基礎棟（主に3～6年次）で講義および実習が行われている。

また、厚生棟の1階には、316席が広がる第1食堂が、2階には第2食堂がある。

運動施設の概要： 体育館には武道場、卓球場、剣道場、柔道場、トレーニング室があり、その他、部室合宿棟、グラウンド（1週400メートルトラック）、テニスコート5面、弓道場を擁している。

また、千葉市若葉区には野球場として御殿町グラウンド(野球場 11,293 m² クラブハウス 247 m²)を備えている。



【市川キャンパス】

所在地： 千葉県市川市菅野 5 - 1 1 - 1 3

主な交通手段：

ＪＲ市川駅下車→京成バス(2 番乗場)「市川学園行き」乗車→「市川総合病院」下車(所用時間：約 1 5 分)

京成電鉄「市川真間駅」下車→改札口をでて左側の階段を降り直進→京成バス「市川真間駅」停留所より「市川学園行き」乗車→「市川総合病院」下車(所用時間：約 1 0 分)

キャンパスの概要： 歯科学生に対する一般医学教育を充実させることを目的として昭和 2 1 年に開院した。現在は 5 7 0 床を有する総合病院に発展し、専任教員により歯科学生への臨床医学教育を行っている。平成 1 8 年には口腔がんセンターが開設され、より専門的な医療を行っている。

学生納付金に関する情報（平成 24 年度入学者について）

東京歯科大学 歯学部

（１）入学年度学生納付金額（9,400,000 円）

	金 額	納入時期
入学金	600,000 円	推薦、帰国子女・留学生特別選抜、編入学 A 学士等特別選抜 A 平成 23 年 11 月 17 日～12 月 2 日 一般（ 期） センター利用（ 期） 平成 24 年 2 月 6 日～2 月 20 日 （ただし入学金については、2 月 6 日～2 月 13 日） 一般（ 期） センター利用（ 期） 編入学 B 学士等特別選抜 B 平成 24 年 3 月 14 日～3 月 21 日
歯学教育充実費	4,300,000 円	
施設維持費	1,000,000 円	
授業料	3,500,000 円	

授業料減免制度あり

（２）2 年目以降毎年度納入額（4,500,000 円）

	金 額	納入時期
授業料	3,500,000 円	前・後期一括納入可 前期 1,750,000 円（4 月 30 日まで） 後期 1,750,000 円（10 月 31 日まで）
施設維持費	1,000,000 円	4 月 30 日まで

授業料減免制度あり

東京歯科大学 大学院歯学研究科

（１）入学年度学生納付金額（1,000,000 円）

	金 額	納入時期
入学金	300,000 円	第 期合格者 平成 23 年 12 月 12 日～12 月 19 日 第 期合格者 平成 24 年 2 月 27 日～3 月 5 日 ただし、授業料については、前・後期に分納することができる。
施設維持費	100,000 円 本学卒業者からは徴収しない	
授業料	600,000 円	

授業料減免制度はなし

（２）2 年目以降毎年度納入額（600,000 円）

	金 額	納入時期
授業料	600,000 円	前・後期分納可 前期 300,000 円（4 月 30 日まで） 後期 300,000 円（10 月 31 日まで）

授業料減免制度はなし

東京歯科大学歯科衛生士専門学校(入学年度学生納付金額 800,000 円 2 年目以降 600,000 円)

	金額	納入時期
入学金	200,000 円	推薦入学者 平成 23 年 11 月 2 日～11 月 18 日 一般入学者 平成 24 年 1 月 27 日～2 月 13 日
授業料	600,000 円	前期 300,000 円(4 月 30 日まで) ただし入学時は上記入学金に同じ 後期 300,000 円(10 月 31 日まで)

授業料減免制度はなし

学生支援と奨学金に関する情報

本学では、学生の修学及び学生生活上の全般的な支援を行うための支援体制として、学年毎に学年主任・副主任を置き、きめ細かな修学指導を行っている。健康管理面では、健康管理センター(内科)があり、修学指導関係者と密に連携を取りながら対応している。

奨学金については、学生生活を経済的に援助することを目的とした独自の奨学金制度として、学資の一部を給付する「東京歯科大学特別奨学金」と、学資の一部を貸与する「東京歯科大学貸与奨学金」、提携学資ローン利用者のうち、規定条件を満たした者を対象とした「利子補給奨学金」を設けている。また、非常災害被災等経済的に修学が困難になった学生に対して、学資の全額または一部を免除する「東京歯科大学授業料等減免制度」を設けている。

< 奨学金制度 >

名 称	内 容	金 額	期間
東京歯科大学特別奨学金	学業・人物が優れている者に学資の一部を給付し、優秀な人材を育成することを目的としている。	授業料 施設維持費の範囲内	1 年
東京歯科大学貸与奨学金	経済的理由(学費支弁者の事故等)により修学が困難な学生に所定の金額を貸与する。	施設維持費の範囲内	最長 3 年
東京歯科大学 授業料等減免	非常災害被災等経済的に修学が困難になった学生に対して、学資の全額または一部を免除する。	授業料 施設維持費の範囲内	最長 6 年
東京歯科大学 利子補給奨学金	提携学資ローン利用者を対象に条件を満たす学生に在学中に発生するローンの利子を補給する。	支払利子額を限度	最長 6 年

< 学生支援組織 >

学年毎に学年主任・副主任を置き、修学上及び学生生活全般に対するサポート体制をとっている。また、健康管理センターでは、各種カウンセリングを行っており、体調不良の学生を本学の付属病院である千葉病院、水道橋病院および市川総合病院で受診できる体制を整えている。

(3) 管理運営の概要

【ガバナンスについて】

平成 25 年 1 月 16 日付で新理事 1 名を選任し、定数 9 名の上限数まで現員を増やすことで理事会機能の強化を図った。理事のうち理事長を含む 4 名が常務理事に選任され、定例及び臨時の理事会の他、各担当常務理事が業務の進捗状況を報告する会議を毎月実施している。

平成 22 年に設置した内部監査室は、理事長の命により、本法人の業務運営及び会計処理について適法性及び妥当性の観点から、公正かつ客観的な立場で検証、評価を行い、その監査結果に基づく情報の提供及び改善並びに合理化のための助言、提言を行うことにより、本法人の健全な運営に資することを目的としている。

【自己点検・評価について】

平成 21 年度に大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審した。そして同年 10 月の実地視察等を経て、平成 22 年 3 月 12 日付大基委大評第 300 号をもって大学基準協会より、本学が「大学基準に適合している」旨の通知と「大学基準適合認定証」が交付された。本学に対する認定期間は、平成 22 年 4 月 1 日より 7 年間（平成 29 年 3 月末まで）である。総評に関連して幾つかの「助言」が付されたが、これらについてはその趣旨に添った改善策を講じ、改善状況を「改善報告書」として取りまとめ、平成 25 年 7 月末までに大学基準協会へ提出する予定である。

【情報公開について】

ホームページ上に情報の公表ページを設け、財務情報のほか、教育研究上の情報、就学上の情報を社会に向けて公表するため、閲覧者が分かりやすい内容で公開している。また、本学の組織・運営及び教育・研究諸活動についての現状とそれに対する社会的評価を社会に向けて公表するため、自己点検・評価結果及び大学評価（認証評価）結果をホームページ上で公開している。

【施設設備整備について】

本学は、歯学部、大学院歯学研究科を設置しており、その臨床教育施設として 3 つの附属病院を設けている。これらの施設は、千葉、市川、水道橋の 3 キャンパスに分散配置されている。なお、平成 24 年度よりキャンパスの拠点を段階的に千葉から水道橋に移している。

千葉キャンパスでは、歯学部と大学院歯学研究科の校舎及び臨床教育研究施設である千葉病院が置かれている。また、学外の御殿町グラウンドに、公式試合に使用できる野球場とクラブハウスを整備している。市川キャンパスには、診療科 23 科と各部門の専門センターを有する 570 床の総合病院が置かれている。水道橋キャンパスでは、平成 24 年度 4 月にさいかち坂校舎が開校し、TDCビルでは、水道橋病院、大学を含めた改修工事が平成 25 年 3 月に完了した。また、新館校舎(仮称)の整備を進めている。

(4) その他取り組みの概要

教育力向上の取り組みの概要

本学の特色として、歯科医学教育に関する教育内容、教育方法の研究・開発を行う教育の中心的部門として歯科医学教育開発センターを設置している。平成 21 年度から「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成」という取り組みが、新たに文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラムに採択された。全学的な取り組みであるが、このプログラム推進の活動が今センターの重要な活動の一つとなっている。この取り組みの目的は、「安心・信頼して診療を任せられる、歯科医師としての人間力を身につけ、卒業時には、患者の社会的背景、複数の疾患、年齢、患者周囲の状況などを配慮した総合診療計画が立案できる、社会が求める歯科医師を養成することである。この他、カリキュラム研修、教育ワークショップ、歯科医学教育セミナー、学生による授業評価など継続した FD 活動を進め、学年主任・副主任を中心とした学生サポート体制の強化も推進している。

国際交流の概要

本学では、平成 24 年度新たにロチェスター大学（アメリカ）と姉妹校協定を締結し、現在、アメリカ・スウェーデン・韓国・中国・台湾・ロシアの 6 ヶ国 9 大学が姉妹校となっている。また、世界中の大学や研究機関とも研究者間および学生間の交流を活発に推進している。

さらに、研究の高い水準の維持・向上や新しい医療技術の導入のため、本学教職員の海外研究者との共同研究のための渡航、国際学会等への参加についても、積極的に推進、支援している。学生教育については、国内あるいは外国での学生相互間の交流を通して、風俗、習慣による考え方の相違点と共通点を認識させ、国際感覚を養うことにより、人類のための普遍的な歯科医療に貢献できる人材の養成を目指している。平成 24 年度は海外姉妹校の施設見学、学生交流等を行う「elective study」プログラムにより、夏季期間を利用し、第 1 学年から第 6 学年までの成績上位者が台北医科大学およびアルバータ大学歯学部（カナダ）を訪問し、学生交流を行った。

社会においてグローバル化が進む中で大学における国際交流を推進することは、世界に向けて日本の歯科医学の研究と医療の立場を明確に示すことのできる人材を養成する上で極めて重要な意義をもつものである。

社会貢献・連携活動の概要

本学は、千葉病院、市川総合病院、水道橋病院の 3 つの附属病院を設置し、それぞれ歯科医療及び内科医療の中核的地域医療機関として地域の医療にも大きく貢献している。これらの附属病院は、一般歯科診療所、開業医の支援病院としても地域医療を支えている。

千葉校舎では、医療系大学の特色を生かし、地域市民を対象に、歯・口腔・身体的健康に関する関心度の高い内容についてテーマを設定した講演会を、本学千葉校舎が所在する千葉市美浜区真砂の関連団体（真砂地区コミュニティづくり懇談会、千葉市社会福祉協議会真砂地区部会、千葉市第 31 地区町内自治会連絡協議会）と共催で毎年開催している。平成 24 年度は「人類学から見たヒト

の頭顔面部の特徴 - 顔や骨、歯の時代的变化（進化）と法的分野での役割 - 」と題した講演会を平成 24 年 11 月 24 日（土）に開催した。なお、本講演会は千葉市、千葉市教育委員会、千葉市科学館の主催で実施された、科学・技術に関する総合的イベント「千葉市科学フェスタ 2012」のサテライトイベントとして登録し参画した。

千葉病院では、市民の健康増進のため、口腔がんおよび前癌病変などを早期に発見し、死亡率の低下を目指すことを目的とし、千葉市より委託を受けた口腔がん検診事業を毎年実施している。また、各地の歯科医師会が行っている口腔がん検診にも協力している。また、医療連携活動の一環として、千葉県歯科医師会および近隣郡市歯科医師会の皆様をお招きし、種々の先進的なテーマや重要な課題を取り上げた医療連携講演会を毎年開催している。

医療に関する活動だけでなく、入院患者、外来患者、及び近隣の住民の方々へ音楽を通して和みの時間を提供することを主旨としてロビーコンサートを開催した。平成 24 年 9 月 29 日（土）に、初めての試みとして千葉病院 1 階待合ロビーにおいて開催し、本学教員とご家族のボランティアによるピアノ演奏が行われ、多くの聴衆にお集まりいただいた。好評により、平成 25 年 1 月 26 日（土）には第 2 回としてジャズ演奏が行われ、今後も継続して開催の予定である。

市川総合病院では、「思わぬアレルギーの落とし穴―身近なアレルゲンから身を守ろう―」と題した市民フォーラム第 17 回市民公開講演会を平成 25 年 1 月 26 日（土）に開催した。医科、歯科各分野の医師がそれぞれの分野の立場から一般市民を対象に講演をおこなった。

3. 財務の概要

(1) 財産目録

財産目録

(単位:千円)

科 目	平成24年度	平成23年度	増 減
資 産 額			
1.基本財産	43,036,265	41,488,098	1,548,167
土地	(216,228.73 m ²) 14,991,924	(216,085.60 m ²) 14,655,625	336,299
建物	(122,325.643 m ²) 19,169,568	(121,822.083 m ²) 17,184,069	1,985,499
図書	(42,219 冊) 808,908	(39,360 冊) 789,247	19,661
教具・工具・備品	(3,660 点) 4,191,186	(3,722 点) 4,141,977	49,209
その他	3,874,679	4,717,180	842,501
2.運用財産	20,482,516	19,819,227	663,288
現金預金	3,945,171	3,836,648	108,523
その他	16,537,345	15,982,579	554,766
3.収益事業用財産	37,230	60,447	23,217
資 産 総 額	63,481,551	61,246,879	2,234,672
負 債 額			
1.固定負債	6,791,061	6,948,283	157,222
長期借入金	1,600,000	1,600,000	0
長期未払金	387,450	515,562	128,112
その他	4,803,610	4,832,721	29,111
2.流動負債	2,889,031	2,862,072	26,959
前受金	1,207,704	1,236,308	28,604
その他	1,681,327	1,625,764	55,563
負 債 総 額	9,680,092	9,810,355	130,263
正味財産(資産総額 - 負債総額)	53,801,459	51,436,523	2,364,935

科目毎に百円の位を四捨五入して表示している為、内訳と総額が一致しない場合がある。

1. 土地の増加は、大学移転計画での東京都千代田区三崎町2丁目土地取得によるものである。
2. 建物の増加は、水道橋キャンパス本館校舎改修工事、市川総合病院電源インフラ設備工事の完成等によるものである。
3. 基本財産のその他の減少は、建設仮勘定（水道橋キャンパス本館校舎改修工事、市川総合病院電源インフラ設備工事）の完成時振替等によるものである。
4. 固定負債の長期借入金は、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金である。
5. 流動負債のその他の増加は、リース契約取得機器備品の、長期未払金からの振替によるものである。

(2) 貸借対照表

貸 借 対 照 表

平成 25年 3 月 31 日現在

資 産 の 部

(単位 : 千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 資 産	((53,313,984))	((53,468,236))	((154,252))
有形固定資産	(42,902,694)	(41,408,377)	(1,494,317)
土 地	14,991,924	14,655,625	336,299
建 物	19,169,568	17,184,069	1,985,499
構 築 物	813,032	868,391	55,359
教育研究用機器備品	4,191,186	4,141,977	49,209
その他の機器備品	177,847	216,850	39,003
図 書	808,908	789,247	19,661
車 輜	1,070	1,833	763
建 設 仮 勘 定	2,749,159	3,550,385	801,226
その他の固定資産	(10,411,290)	(12,059,859)	(1,648,569)
電 話 加 入 権	9,619	9,619	0
施 設 利 用 権	3,720	4,265	545
ソ フ ト ウ ェ ア	1,985	0	1,985
収 益 事 業 元 入 金	52,070	52,070	0
長 期 貸 付 金	66,177	13,768	52,409
退職給与引当特定資産	4,803,610	4,832,721	29,111
減価償却引当特定資産	4,420,608	6,380,726	1,960,118
施設設備整備引当資産	500,000	500,000	0
大学移転寄付特定資金	410,973	264,269	146,704
大学奨学金特定資産	137,688	0	137,688
長 期 前 払 費 用	3,112	840	2,272
敷 金 保 証 金 等	1,728	1,581	147
流 動 資 産	((10,204,797))	((7,839,090))	((2,365,707))
現 金 預 金	3,945,171	3,836,648	108,523
未 収 入 金	3,367,893	3,110,214	257,679
貯 蔵 品	214,694	175,501	39,193
短 期 貸 付 金	2,585,276	629,419	1,955,857
短 期 前 払 費 用	91,763	87,308	4,455
資 産 の 部 合 計	63,518,781	61,307,326	2,211,455

負 債 の 部

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固 定 負 債	((6,791,060))	((6,948,283))	((157,223))
長 期 借 入 金	1,600,000	1,600,000	0
長 期 未 払 金	387,450	515,562	128,112
退 職 給 与 引 当 金	4,803,610	4,832,721	29,111
流 動 負 債	((2,889,032))	((2,862,072))	((26,960))
未 払 金	1,425,133	1,431,739	6,606
前 受 金	1,207,704	1,236,308	28,604
預 り 金	256,195	194,025	62,170
負 債 の 部 合 計	9,680,092	9,810,355	130,263

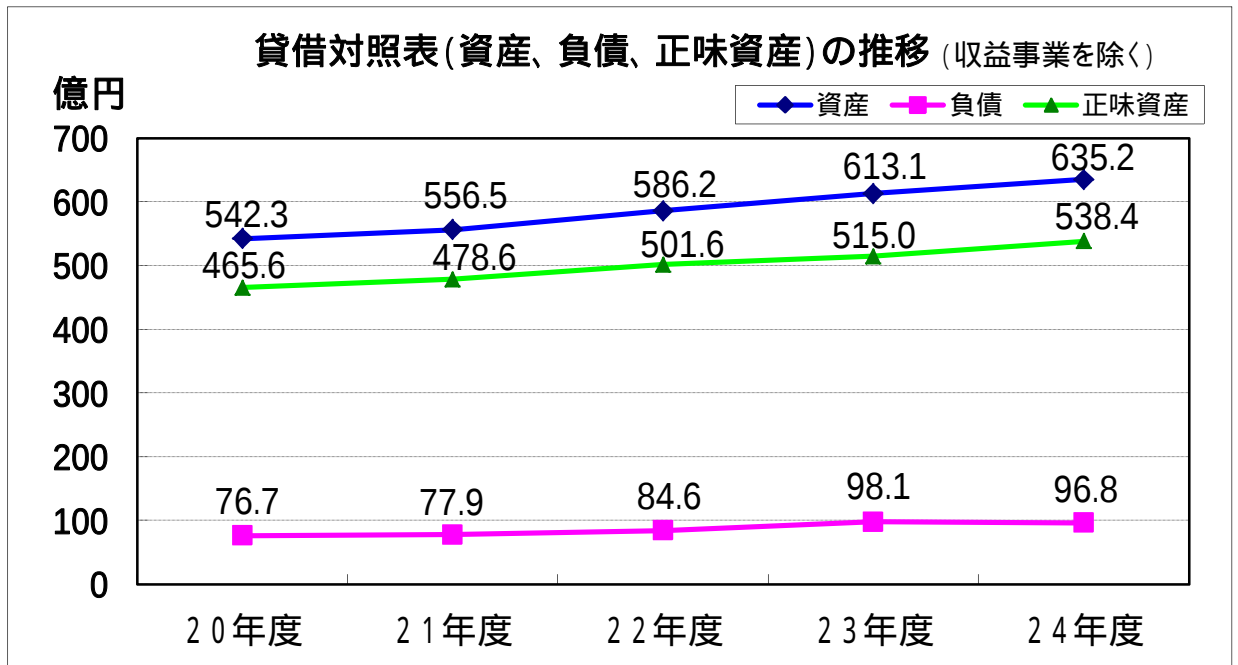
基本金の部

科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	77,948,351	75,167,816	2,780,535
第2号基本金	500,000	500,000	0
第4号基本金	1,805,547	1,753,835	51,712
基本金の部合計	80,253,898	77,421,651	2,832,247

消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	26,415,208	25,924,680	490,528
消費収支差額の部合計	26,415,208	25,924,680	490,528
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	63,518,781	61,307,326	2,211,455

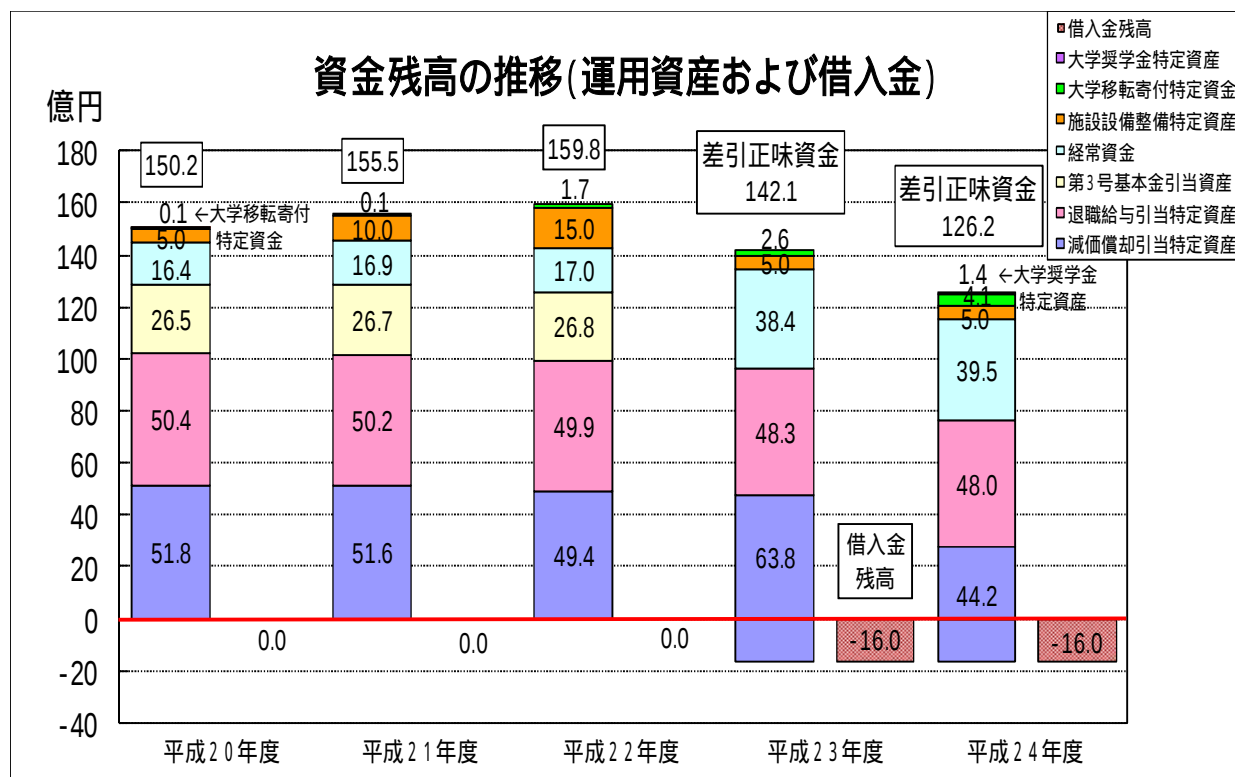
正味資産 = 資産 - 負債 (= 基本金 + 消費収支差額)



資産の部では前年度と比べ、有形固定資産では千代田区三崎町2丁目の土地取得、本館校舎改修工事の完成などにより14億9,400万円の増となるが、その他の固定資産では減価償却引当特定資産の減などにより16億4,900万円の減となり、固定資産合計では、1億5,400万円の減となった。流動資産では、テナントビル取得の為の収益事業会計への短期貸付金が増となり、23億6,600万円の増となった。よって資産の部合計では、約22億1,100万円の増となった。一方、負債の部では、過年度リース取得の市川総合病院電子カルテシステム分の長期未払金の減等で、約1億3,000万円の減となった。学校法人の資金調達源泉を分析する正味資産/総

資金比率（総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額）は24年度84.8%となり、前年度より0.8%数値は高くなった。

負債の割合を見る総負債比率（総負債／総資産）は0.8%低い15.2%となった。



運用資産は、各特定資産・特定資金・経常資金を合わせて24年度決算では約142億2,000万円となった。大学移転計画での水道橋校舎建築事業や、テナントビル取得に伴う資金支出があり、前年より15億9,000万円の減となっている。日本私立学校振興・共済事業団からの借入金16億円を除く差引正味資金は126億2,000万円である。第2号基本金相当の施設設備整備引当特定資産は前年度までの組入額残高5億円を大学移転計画関係資産の取得のため、第1号基本金に振替し、新たに今年度分5億円を積立てた。退職給与引当金の100%の額を退職給与引当特定資産として保持している。また大学移転計画に対応し募集している寄付特定資金は4億1,000万円となった。24年度より父兄会より移管を受けた大学奨学金特定資産1億4,000万円を保持している。退職給与引当特定資産・大学奨学金特定資産・経常資金を除く運用資産は、約53億3,000万円となっている。

(3) 収支計算書

資金収支計算書

学校法人会計での資金収支計算書を作成する目的は、第一に当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにすること、第二に当該会計年度での支払資金の収入と支出とその顛末を明らかにすることである。当該年度はもとより、前年度以前あるいは次年度以降の諸活動に関する資金も含め、当該会計年度の中で実際に動きのあった全ての支払い資金（現金預金）の収支の動きを明らかにするため調整項目を設けている。また、その他の収入・資産運用支出の科目は、繰返し発生する年中の資金の出入りを総額で表示しているため大きな額となっている。

平成 24 年度において、（収入の部）では、寄付金収入で現在募集中の大学移転計画寄付金があり対予算増となっている。寄付金収入は、実際の資金の収入ではない現物寄付金は除いている。医療収入では、水道橋病院で予算額を下回ったものの、千葉病院、市川総合病院で予算額を上回り、全体でも予算より約 6,500 万円増となった。雑収入の対予算増は、主に臨時的な退職者での退職金財団交付金の増である。前受金収入は、予算と同等額で内容は学部・歯科衛生士専門学校の平成 25 年度入学生からの学納金ほかである。その他の収入は、各特定資産からの繰入収入、前期末未収入金収入、貸付金回収収入などである。以上、収入の総額から資金収入調整勘定の期末未収入金・前期末前受金などを差し引いた収入の部小計は、約 461 億 2,400 万円となった。前年度繰越支払資金約 38 億 3,700 万円を加えた収入の部合計は、約 499 億 6,100 万円となった。

一方、（支出の部）では、大学移転計画の進行に伴って、施設・設備関係支出を中心に予算の補正を行っている。人件費支出から設備関係支出まで、対予算では予算残があるが、対前年比では、大学での臨時的な退職者の増により人件費支出の増、市川総合病院での医療経費増による教育研究経費支出の増となった。資産運用支出は、退職給与引当特定資産への繰入支出・減価償却引当特定資産への繰入支出などを総額表示している。その他の支出は、貸付金支払支出、前期末未払金支払支出などである。貸付金支払支出には、テナントビル取得資金としての収益事業会計への貸付金 21 億 700 万円を含み、対前年度比では 21 億 5,400 万円増となった。以上、支出総額から資金支出調整勘定の期末未払金等を差し引いた支出の部小計は、約 460 億 1,600 万円となり、支払資金約 39 億 4,500 万円が次年度へ繰越となった。

平成24年度 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成24年度予算	平成24年度決算	差 異	平成23年度決算	増 減
(収 入 の 部)					
1. 学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	4,676,340	4,647,247	29,093	4,615,139	32,108
2. 手 数 料 収 入	34,350	45,351	11,001	41,986	3,365
3. 寄 付 金 収 入	235,520	372,879	137,359	219,192	153,687
4. 補 助 金 収 入	1,091,780	1,203,436	111,656	1,175,449	27,987
(国 庫 補 助 金 収 入)	(1,080,470)	(1,169,542)	(89,072)	(1,162,813)	(6,729)
(地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入)	(11,310)	(33,894)	(22,584)	(12,636)	(21,258)
5. 資 産 運 用 収 入	212,740	216,655	3,915	236,063	19,408
6. 事 業 収 入	457,320	476,882	19,562	512,404	35,522
7. 医 療 収 入	18,528,730	18,593,621	64,891	17,958,300	635,321
8. 雑 収 入	464,620	832,960	368,340	597,995	234,965
9. 借 入 金 等 収 入	0	0	0	1,600,000	1,600,000
10. 前 受 金 収 入	1,213,150	1,198,671	14,479	1,236,308	37,637
11. そ の 他 の 収 入	19,689,210	23,133,167	3,443,957	24,428,180	1,295,013
12. 資 金 収 入 調 整 勘 定	4,134,560	4,596,862	462,302	4,352,200	244,662
小 計	42,469,200	46,124,007	3,654,807	48,268,816	2,144,809
13. 前 年 度 繰 越 支 払 資 金	3,867,950	3,836,648	31,302	1,706,667	2,129,981
収 入 の 部 合 計	46,337,150	49,960,655	3,623,505	49,975,483	14,828
(支 出 の 部)					
1. 人 件 費 支 出	12,244,590	12,173,790	70,800	11,931,681	242,109
2. 教 育 研 究 経 費 支 出	8,567,360	8,135,041	432,319	8,046,332	88,709
3. 管 理 経 費 支 出	2,163,890	1,959,760	204,130	2,201,798	242,038
4. 借 入 金 等 利 息 支 出	0	0	0	0	0
5. 借 入 金 等 返 済 支 出	0	0	0	0	0
6. 施 設 関 係 支 出	4,645,130	4,013,393	631,737	4,379,103	365,710
7. 設 備 関 係 支 出	1,562,550	1,030,197	532,353	1,203,037	172,840
8. 資 産 運 用 支 出	12,909,150	18,150,762	5,241,612	19,145,554	994,792
9. そ の 他 の 支 出	3,512,810	3,638,165	125,355	1,484,367	2,153,798
10. [予 備 費]	287,320		287,320		
11. 資 金 支 出 調 整 勘 定	3,483,950	3,085,624	398,326	2,253,037	832,587
小 計	42,408,850	46,015,484	3,606,634	46,138,835	123,351
12. 次 年 度 繰 越 支 払 資 金	3,928,300	3,945,171	16,871	3,836,648	108,523
支 出 の 部 合 計	46,337,150	49,960,655	3,623,505	49,975,483	14,828

消費収支計算書

平成24年度決算での帰属収支差額は約23億4,200万円で、前年の約13億3,600万円に比べ、約10億600万円の増加である。主な要因は大学で父兄会からの奨学基金の移管による寄付金約1億9,000万円のほか、市川総合病院で医療収入が対前年比で約6億0,600万円の増、法人で23年度は大学移転計画建築工事の進展の中で新館工事解体撤去費など臨時的な支出があったことなどである。

平成24年度の消費収入の部では、帰属収入合計は、約264億5,100万円となり、予算より約6億8,100万円増(2.6%増)となった。医療収入が約6,500万円増となったほか、その他の科目では、学生生徒等納付金は減、寄付金では、大学移転計画寄付金があったため寄付金全体で予算より約1億3,000万円増、補助金は私立大学等経常費補助金が予算より増、歯科臨床研修費補助金が減で、その他の施設設備補助金と合わせて全体では予算より約1億1,200万円増となった。事業収入では、受託事業収入の増で予算をやや上回った。雑収入は、臨時の退職者による退職金財団交付金の増で約3億6,900万円の増となった。

基本金組入額合計は、約63億5,000万円を計上した。第1号基本金組入額は、新たな固定資産の取得額から本年度の除却および廃棄する固定資産の額を差し引いた額を組み入れた。水道橋本館校舎改修工事完成による資産の取得のほか、学校法人から大学へ本館校舎の資産の一部を移管したことなどで、第1号基本金に約57億9,900万円を組入れた。

新校舎建設に係る第2号基本金は過年度組入額5億円を第1号基本金に振替、新たに5億円を組み入れた。また第4号基本金組入額は、恒常的に保持すべき資金を組み入れている。

一方、消費支出の部では、消費支出の部合計は、約241億900万円となり、予算より約11億3,100万円減(4.5%減)となった。人件費は総額で予算内執行であるが、24年度は臨時の退職者により退職引当金繰入額が増となり対前年度比では約3億7,100万円増となった。教育研究経費総額では予算より約5億2,200万円減となった。＜教育研究経費＞では多くの科目で予算内執行となり、＜医療経費＞でも全体で予算内執行となった。また管理経費総額では予算より約2億2,200万円減となった。

その結果、短期的な経営指針である帰属収支差額でみると約23億4,200万円の黒字計上となり、補正後の予算を約18億1,100万円上回った。帰属収入に対する消費支出比率は91.1%となった。また、長期的運営指針である消費収入-消費支出では、大学移転計画進展での基本金組入額の増などで、約40億900万円の支出超過となった。また、基本金取崩額は、学校法人から水道橋本館校舎の資産の一部を大学へ移管したことなどで、全体で約35億1,800万円となった。

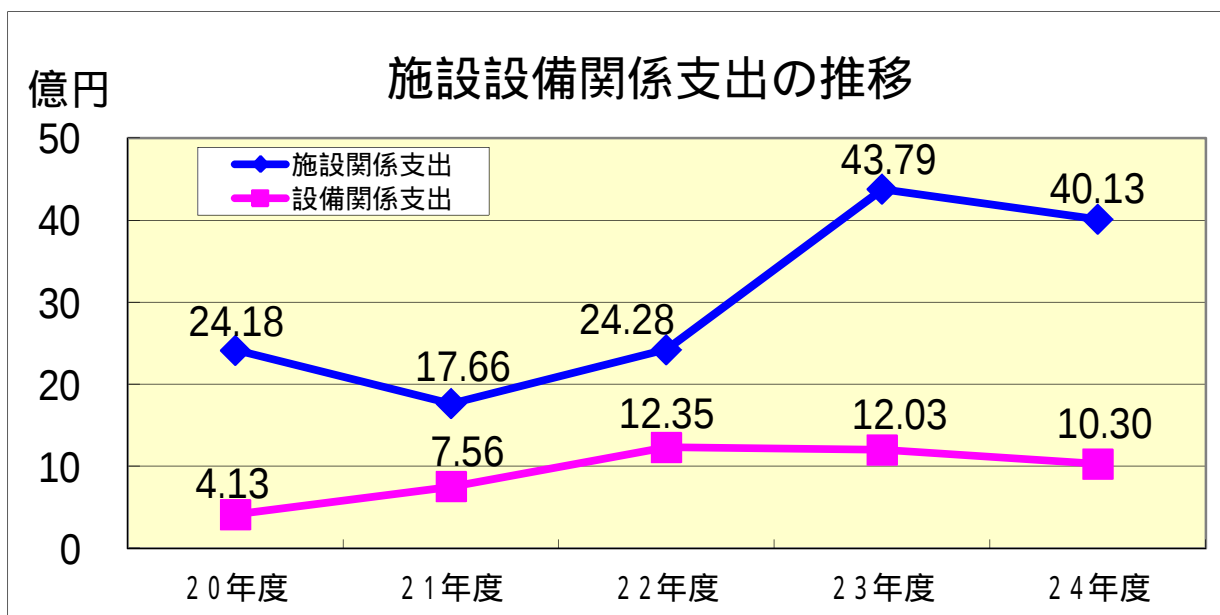
平成24年度 消費収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成24年度予算	平成24年度決算	差 異	平成23年度決算	増 減
(消費収入の部)					
1. 学 生 生 徒 等 納 付 金	4,676,340	4,647,247	29,093	4,615,139	32,108
2. 手 数 料	34,350	45,351	11,001	41,986	3,365
3. 寄 付 金	304,020	434,163	130,143	229,492	204,671
4. 補 助 金	1,091,780	1,203,436	111,656	1,175,449	27,987
(国 庫 補 助 金 収 入)	(1,080,470)	(1,169,542)	(89,072)	(1,162,813)	(6,729)
(地方公共団体補助金収入)	(11,310)	(33,894)	(22,584)	(12,636)	(21,258)
5. 資 産 運 用 収 入	212,740	216,655	3,915	236,062	19,407
6. 資 産 売 却 差 額	0	0	0	0	0
7. 事 業 収 入	457,320	476,882	19,562	512,404	35,522
8. 医 療 収 入	18,528,730	18,593,621	64,891	17,958,300	635,321
9. 雑 収 入	464,620	833,225	368,605	598,862	234,363
帰 属 収 入 合 計	25,769,900	26,450,580	680,680	25,367,694	1,082,886
10. 基 本 金 組 入 額 合 計	3,104,010	6,350,497	3,246,487	4,992,240	1,358,257
消 費 収 入 の 部 合 計	22,665,890	20,100,083	2,565,807	20,375,454	275,371
(消費支出の部)					
1. 人 件 費	12,306,420	12,144,680	161,740	11,773,440	371,240
2. 教 育 研 究 経 費	10,221,220	9,698,784	522,436	9,629,681	69,103
< 教 育 研 究 経 費 >	<4,888,400>	<4,412,519>	< 475,881>	<4,298,346>	<114,173>
< 医 療 経 費 >	<5,332,820>	<5,286,265>	< 46,555>	<5,331,335>	< 45,070>
3. 管 理 経 費	2,453,940	2,232,391	221,549	2,492,179	259,788
< 管 理 経 費 >	<2,453,940>	<2,232,391>	< 221,549>	<2,461,124>	< 228,733>
< 記 念 事 業 費 >	<0>	<0>	<0>	<31,055>	< 31,055>
4. 借 入 金 等 利 息	0	0	0	0	0
5. 資 産 処 分 差 額	9,500	23,696	14,196	131,924	108,228
6. 徴収不能引当金繰入額等	17,890	9,310	8,580	4,191	5,119
7. [予 備 費]	230,590		230,590		
消 費 支 出 の 部 合 計	25,239,560	24,108,861	1,130,699	24,031,415	77,446
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	2,573,670	4,008,778	1,435,108	3,655,961	352,817
前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	26,792,420	25,924,680	867,740	28,807,883	2,883,203
基 本 金 取 崩 額	5,600	3,518,250	3,512,650	6,539,165	3,020,915
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	29,360,490	26,415,208	2,945,282	25,924,679	490,529
(帰 属 収 入 - 消 費 支 出)	(530,340)	(2,341,719)	(1,811,379)	(1,336,279)	(1,005,440)

(4) グラフで見る財務状況

施設設備関係支出の推移



24年度...大学、水道橋病院で本館校舎改修工事ほか移転計画関係費、市川総合病院で電源インフラ設備工事ほか。

23年度...学校法人で、移転計画建設工事着手金ほか、水道橋校舎での備品等の取得など。

22年度...学校法人で、移転計画建設工事関係費、市川旧病院隣接土地取得。市川総合病院で、電子カルテ関係備品取得。

21年度...学校法人で、土地取得。市川総合病院で、冷温水機更新工事や放射線治療システムを取得。

20年度...学校法人で、土地取得ほか。市川総合病院で、中央監視装置更新工事ほか取得。

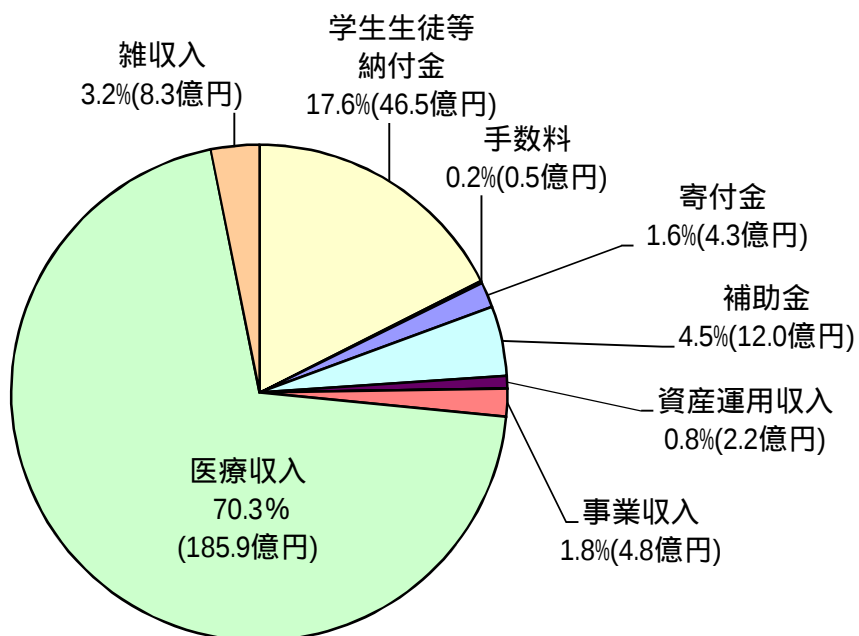
主な現有施設の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等	取得価額	帳簿価額	摘要
東京都千代田区 (水道橋キャンパス)	校舎敷地	4,186㎡	2,237,521千円	2,237,521千円	学校法人本部、水道橋病院、さいかち坂校舎として利用している。
	校舎	20,981㎡	11,499,246千円	5,753,582千円	
	土地	3,429㎡	9,333,296千円	9,333,296千円	
	建物	11,792㎡	2,629,697千円	932,212千円	
千葉県千葉市美浜区 (千葉キャンパス)	校舎敷地	99,184㎡	1,863,395千円	1,863,395千円	大学、千葉病院、歯科衛生士専門学校が利用している。
	校舎	54,475㎡	15,464,258千円	3,985,175千円	
	土地	3,300㎡	752,340千円	752,340千円	
千葉県市川市 (市川キャンパス)	校舎敷地	38,020㎡	194,485千円	194,485千円	市川総合病院として利用している。
	校舎	42,525㎡	19,752,430千円	8,871,029千円	
	土地	2,048㎡	531,632千円	531,632千円	看護師等宿舎として利用している。
	建物	3,964㎡	750,596千円	542,296千円	
	土地	591㎡	132,745千円	132,745千円	病院隣接土地。病院が管理している。
	土地	11,395㎡	1,183,620千円	1,183,620千円	
	土地	9,991㎡	52,639千円	52,639千円	病院駐車場及び雑マルエツへ賃貸している。
千葉県千葉市若葉区	土地	31,916㎡	988,576千円	988,576千円	運動場として利用している。
	建物	247㎡	91,505千円	17,476千円	
米国ニューヨーク州	土地	12,910㎡	37,983千円	37,983千円	歴史的建造物(野口英世旧別荘)として管理している。
	建物	134㎡	10千円	10千円	
千葉県鴨川市	土地	215㎡	29千円	29千円	旧鴨川寮敷地。学校法人で管理している。
総計					
	土地	217,184㎡	17,308,261千円	17,308,261千円	
	建物	134,117㎡	50,187,742千円	20,101,780千円	

消費収支科目構成

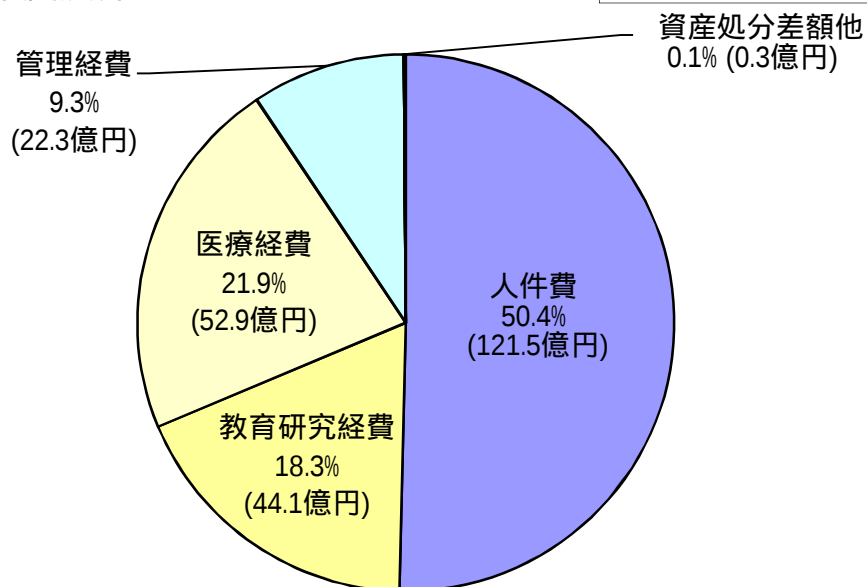
平成24年度決算

帰属収入 264.5億円

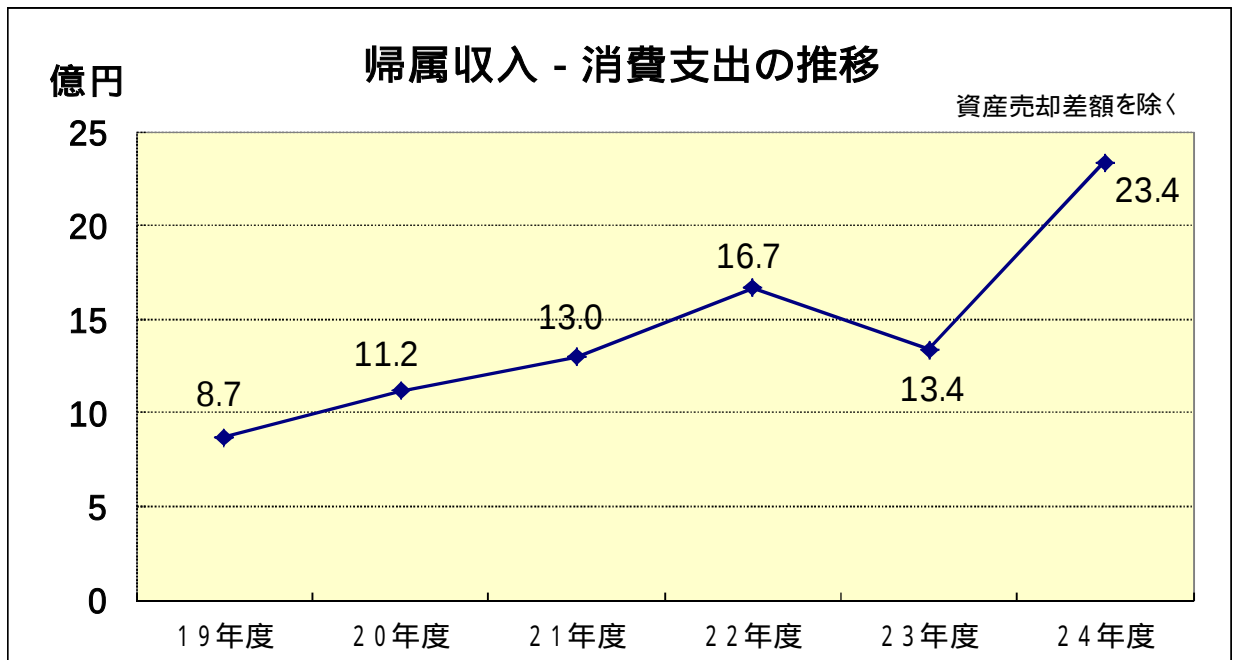


平成24年度決算

消費支出 241.1億円

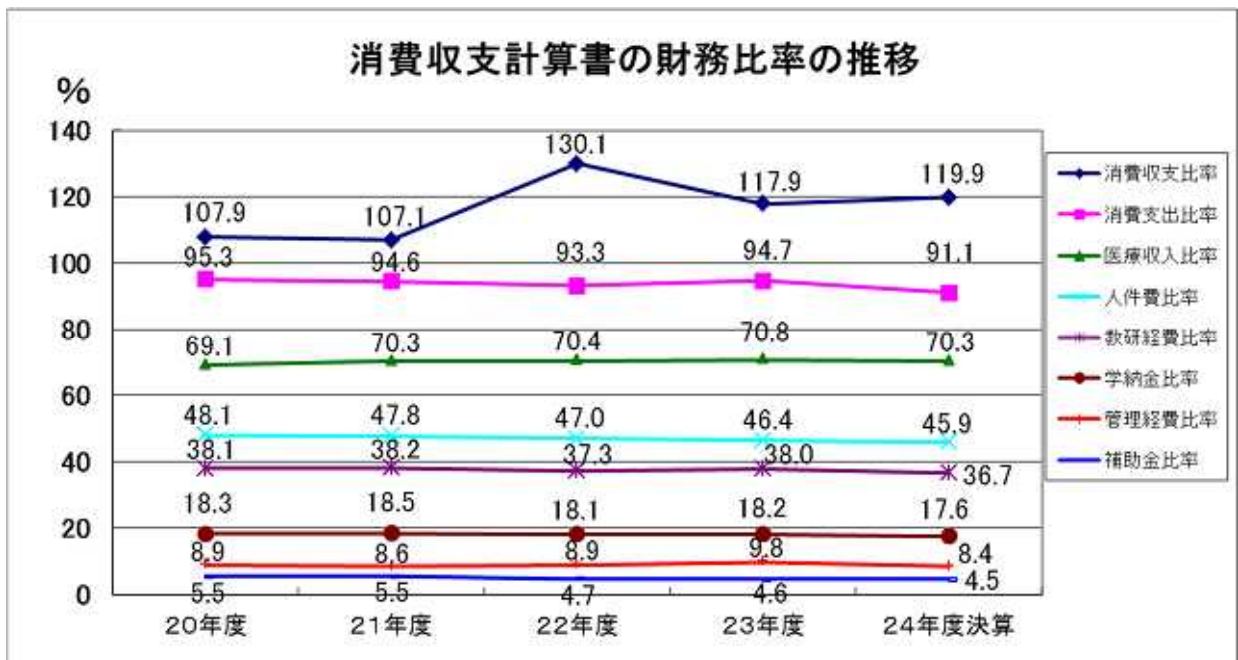


帰属収支差額の推移



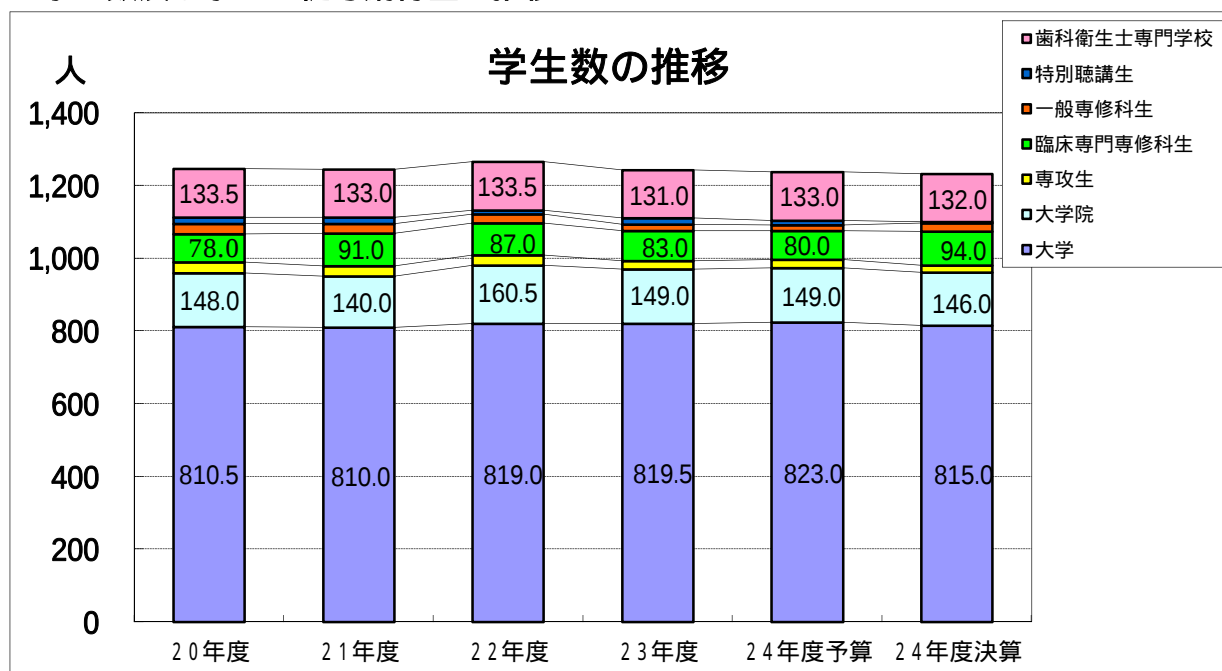
財務趨勢比率の推移

22年度決算は資産売却差額を除いた金額で算出した比率である。



22年度の消費収支比率増は、水道橋校舎TDCビル建物の一部を収益から法人に移管し基本金組入額増であった。消費支出・人件費・教育研究経費は、19年度以降の学納金増、21年度の放射線備品補助金、22～24年度の大学移転寄付金、23年度の掛金外退職交付金による退職引当金繰入額減、24年度の父兄会からの奨学基金の移管など臨時的要素での収入増・支出減もあり、見かけ上経費率が漸減している。補助金比率は臨時的補助金が無い年はやや低い。

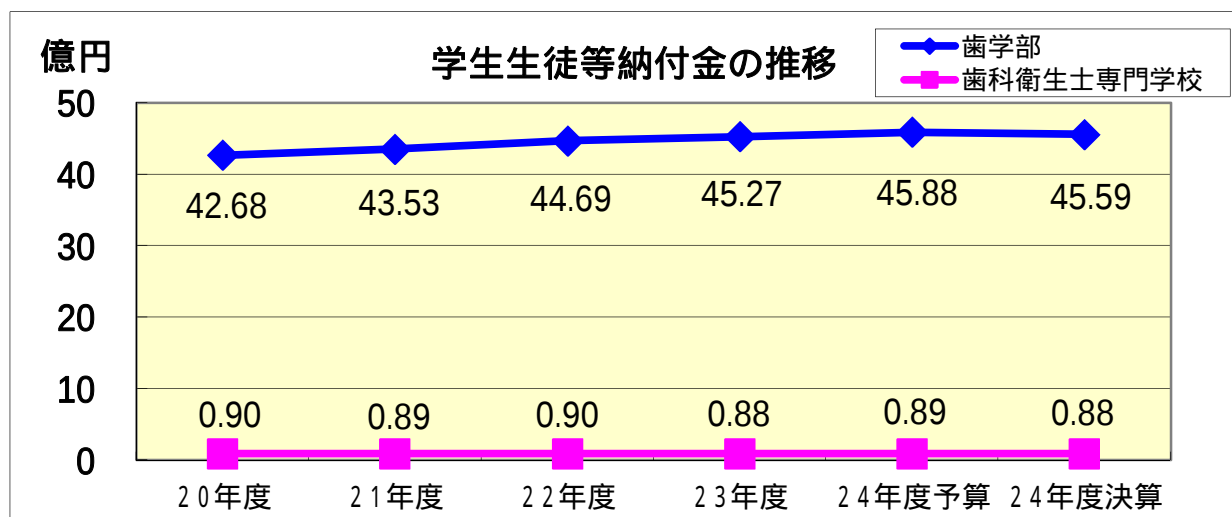
学生数及び学生生徒等納付金の推移



(人)

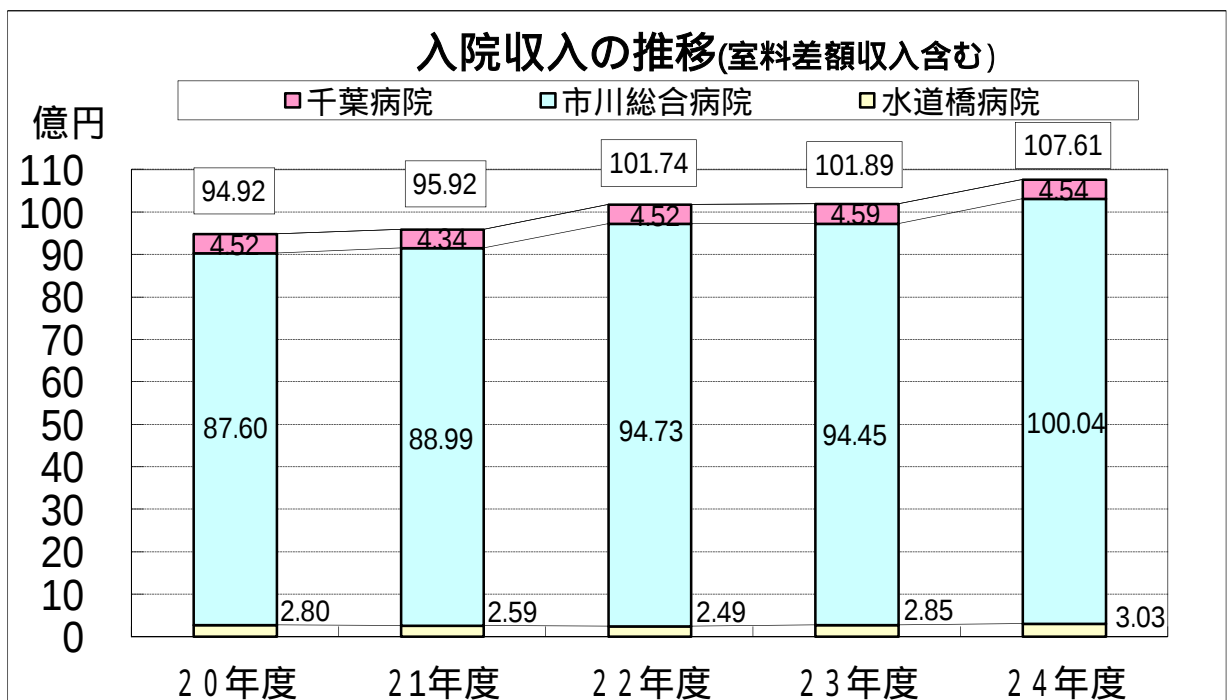
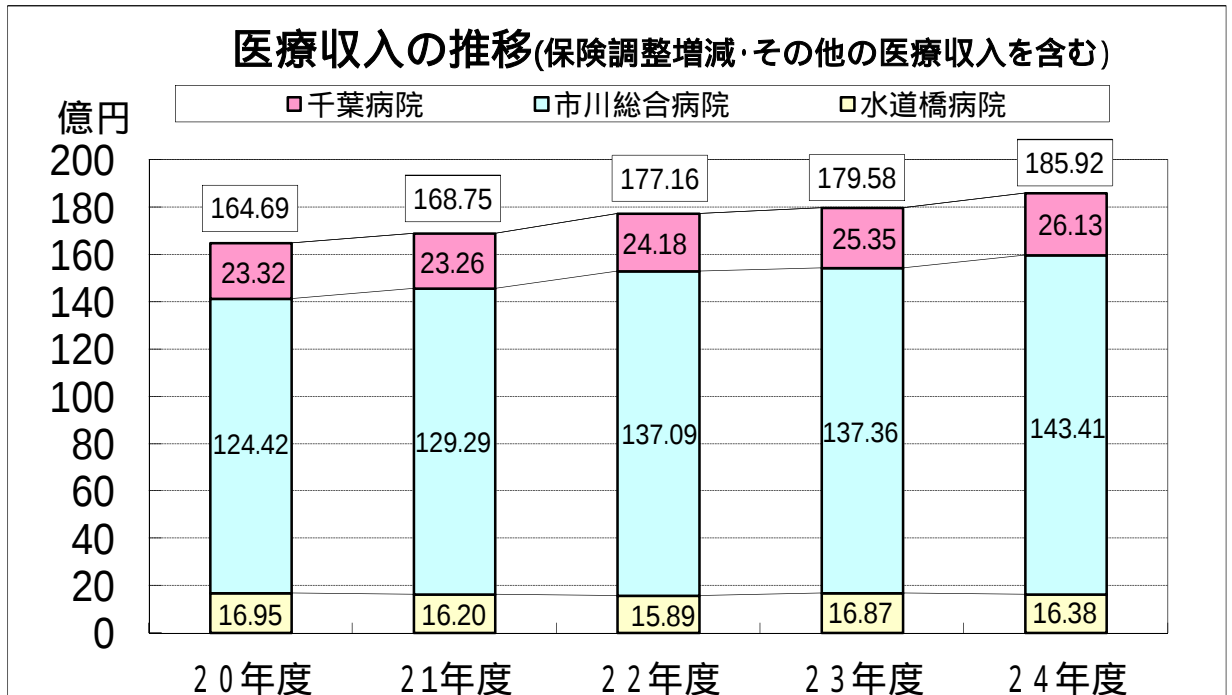
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度予算	24年度決算
大学	810.5	810.0	819.0	819.5	823.0	815.0
大学院	148.0	140.0	160.5	149.0	149.0	146.0
専攻生	30.0	27.5	29.0	24.0	23.0	18.0
臨床専門専修科生	78.0	91.0	87.0	83.0	80.0	94.0
一般専修科生	28.3	26.0	25.0	17.3	16.0	23.3
特別聴講生	17.0	17.0	10.0	18.0	12.0	3.0
歯科衛生士専門学校	133.5	133.0	133.5	131.0	133.0	132.0
計	1,245.3	1,244.5	1,264.0	1,241.8	1,236.0	1,231.3

ここでの学生数は、学生生徒等納付金から出したものであり、学校基本調査の値とは異なる。

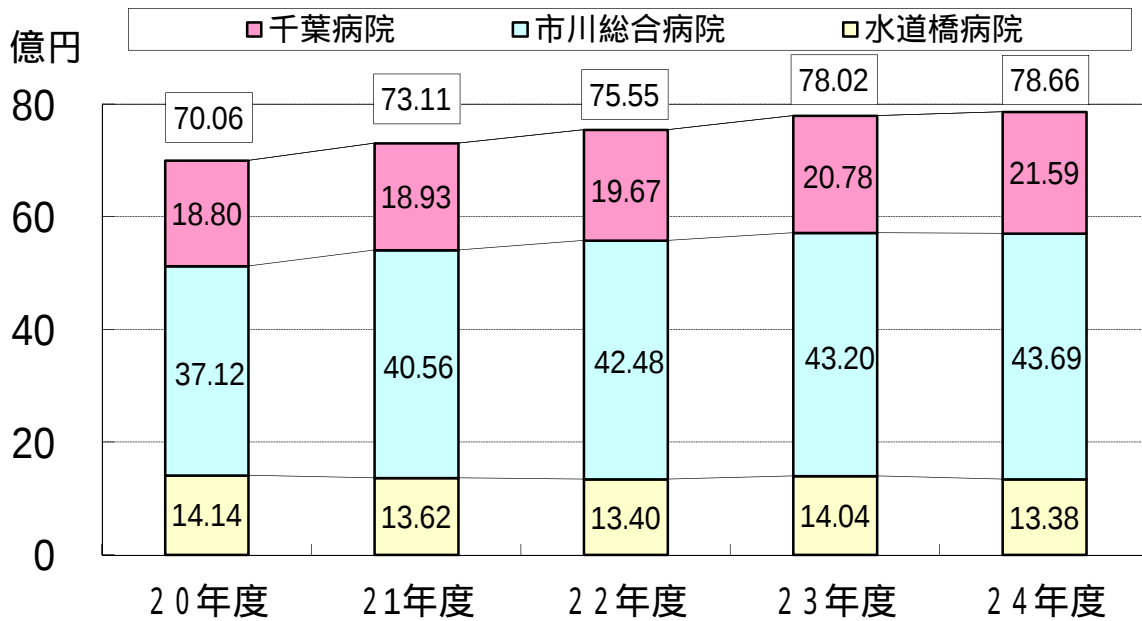


大学で学納金変更があった19年度から24年度で6年目となる。

附属病院医療収入推移グラフ（歯科衛生士専門学校を除く）



外来収入の推移



千葉病院...入院収入はほぼ一定、外来収入は患者・診療単価増で、徐々に伸びている。

市川総合病院...入院・外来収入とも患者・診療単価増で、前年を上回った。

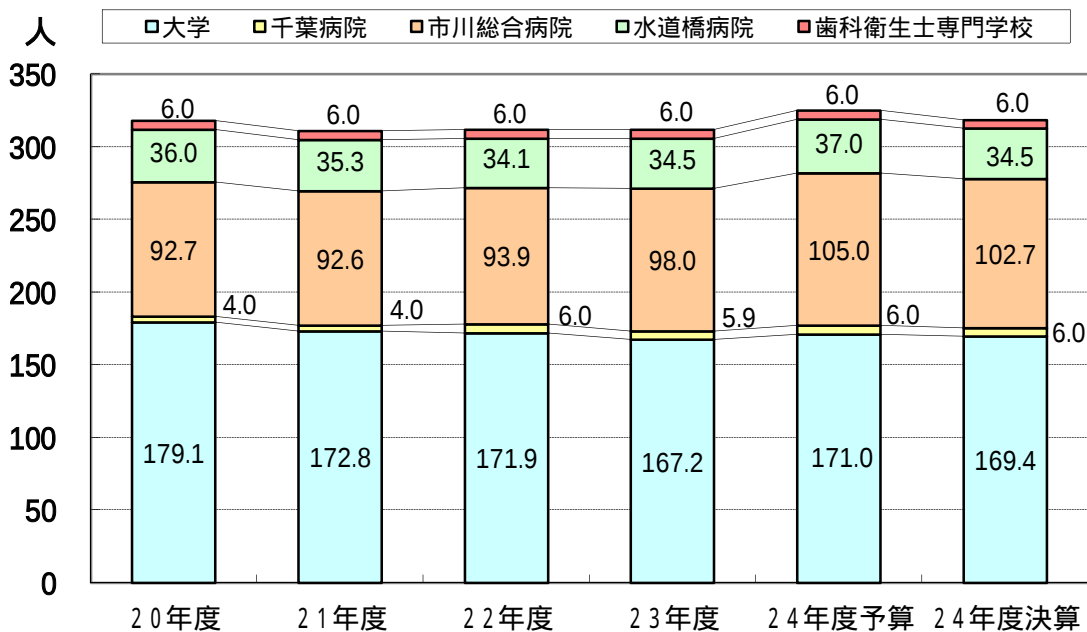
水道橋病院...入院収入は前年より増、外来収入は患者増も診療単価の減で前年を下回った。

教職員数及び人件費（消費支出）の推移

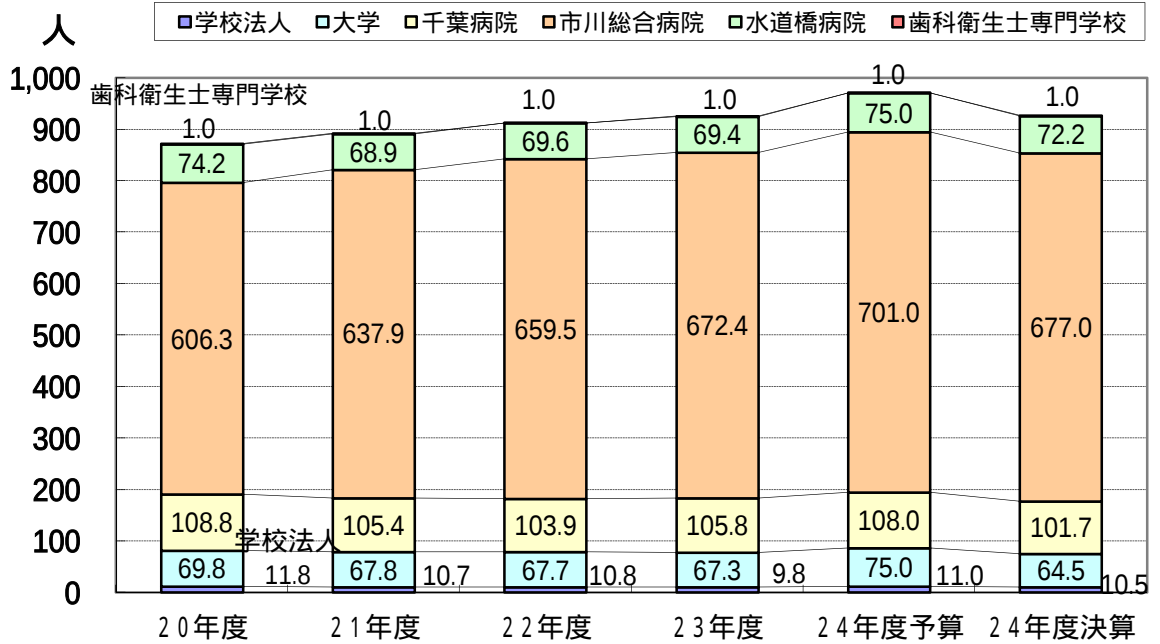
千葉病院教員は、病院の教員人件費対象者を除き大学に含む。

充足人員で表示。

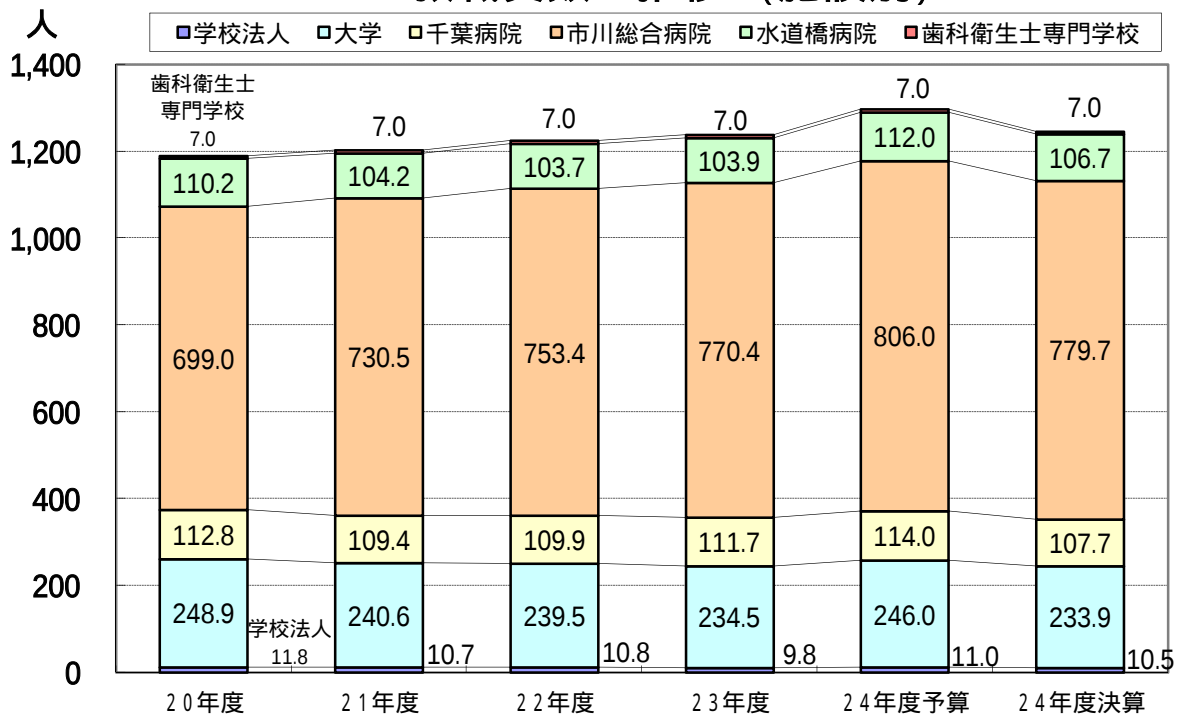
教員数の推移

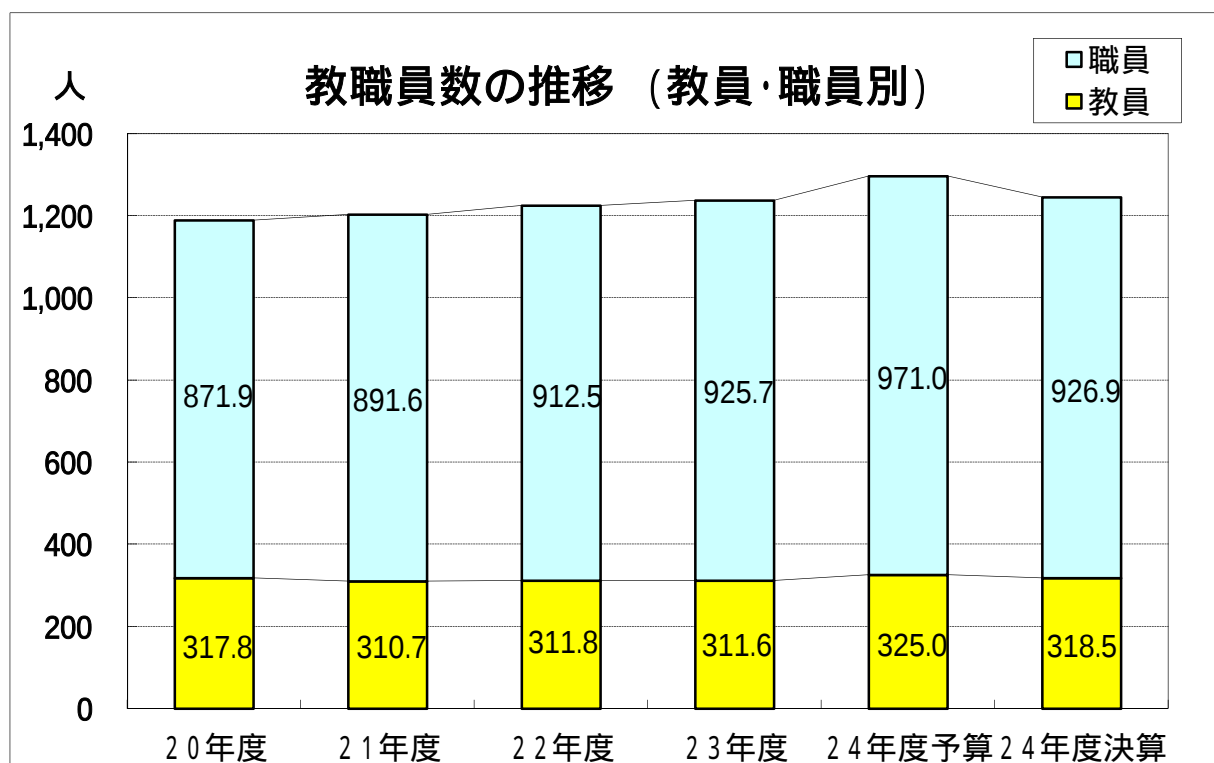


職員数の推移

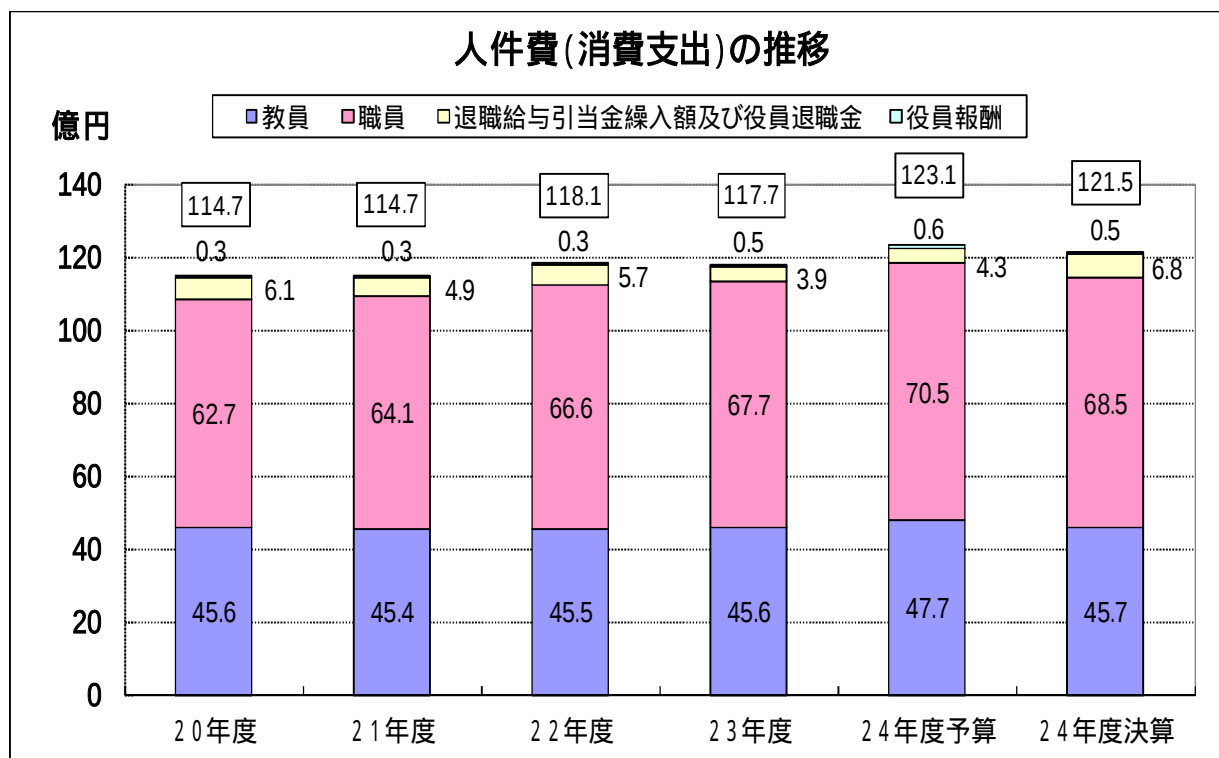


教職員数の推移（施設別）



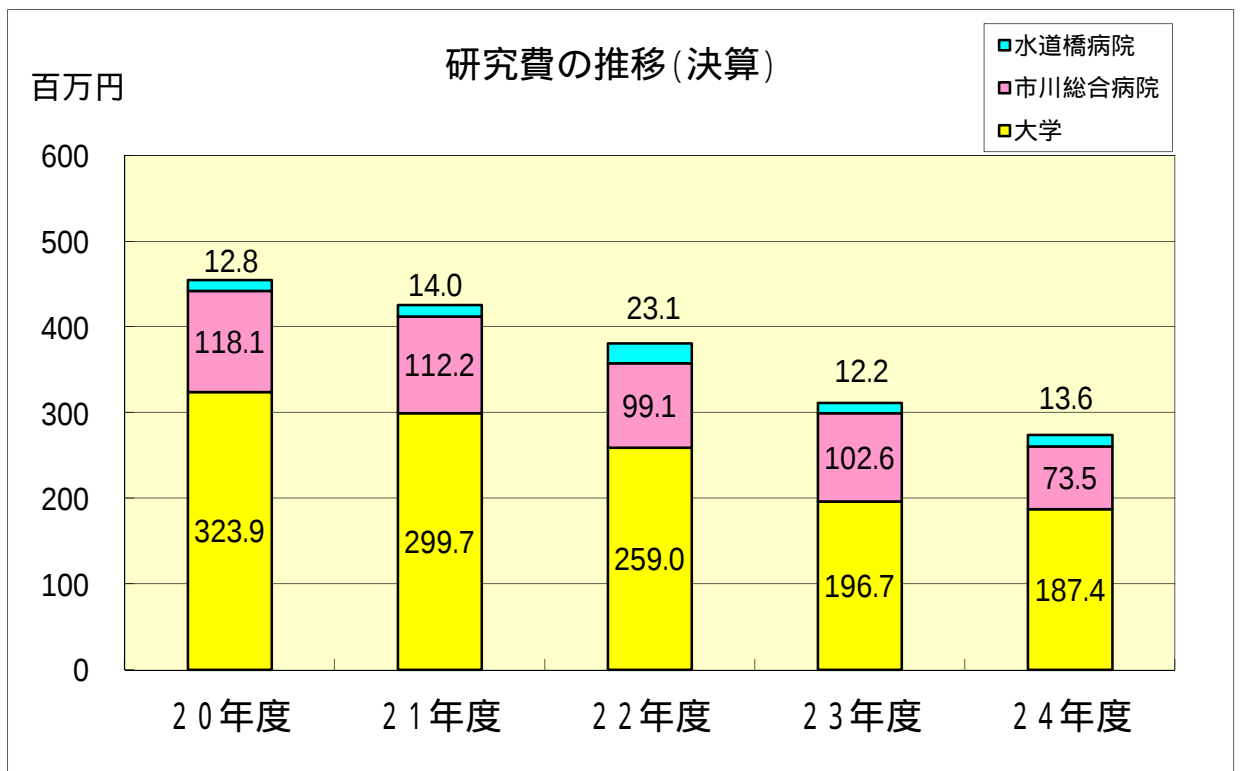
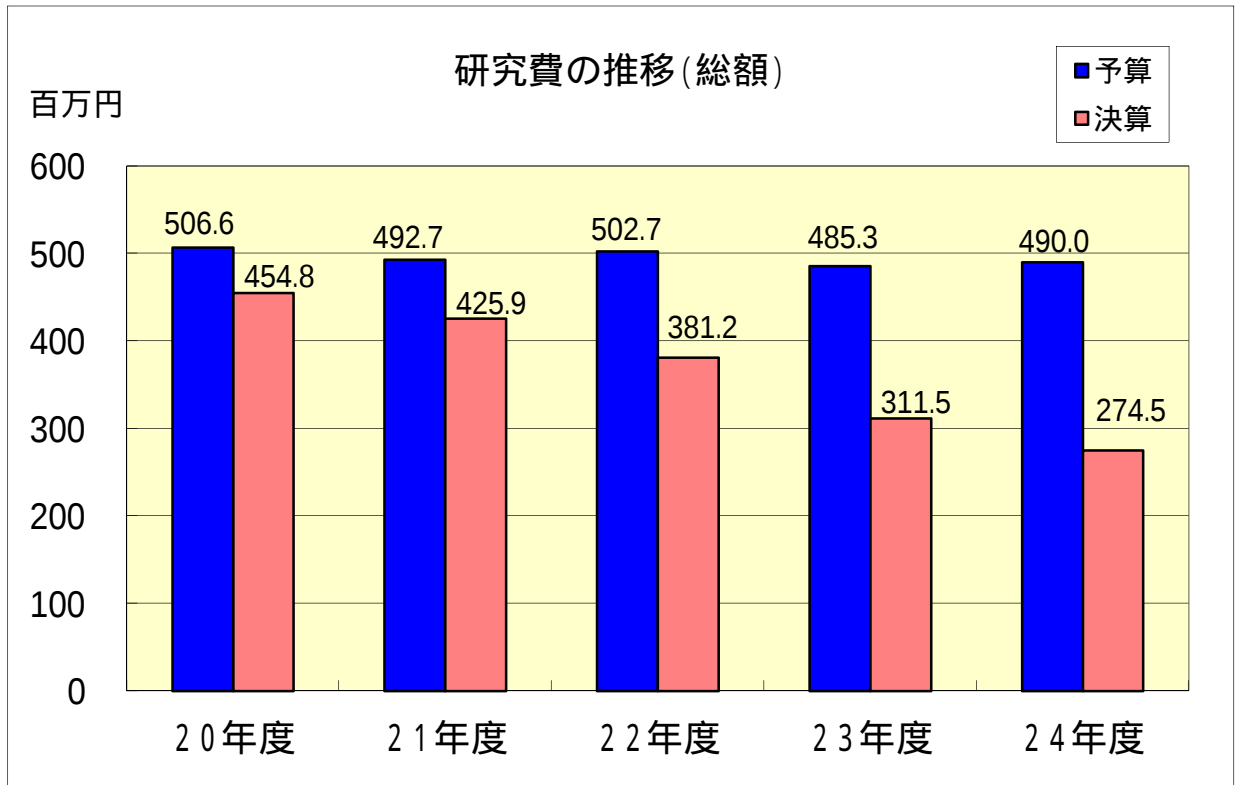


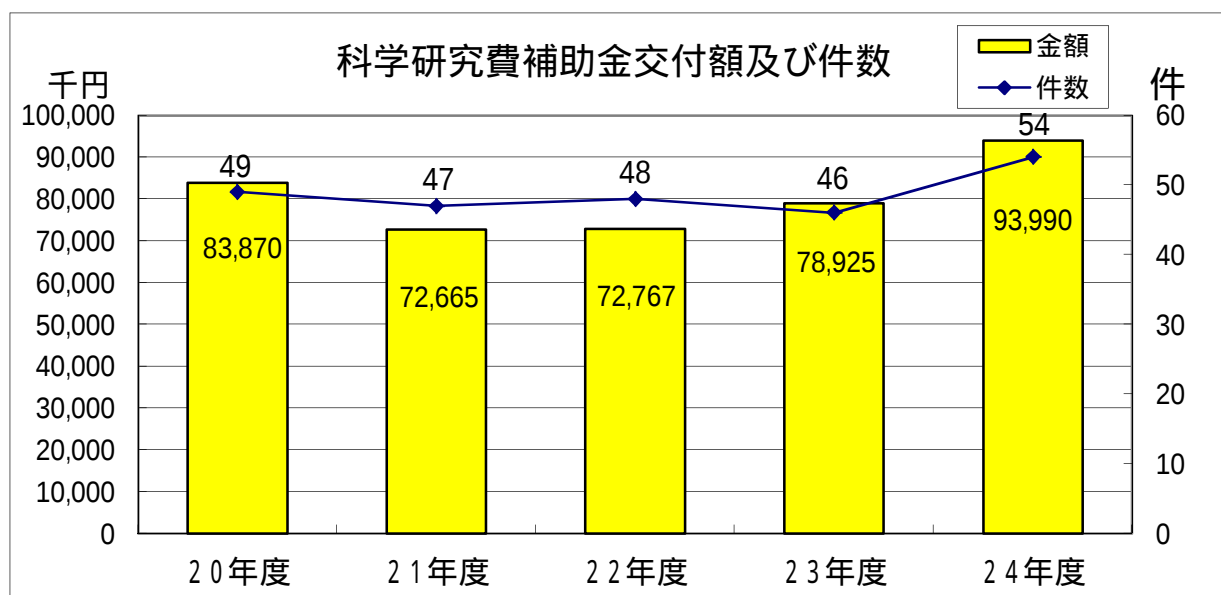
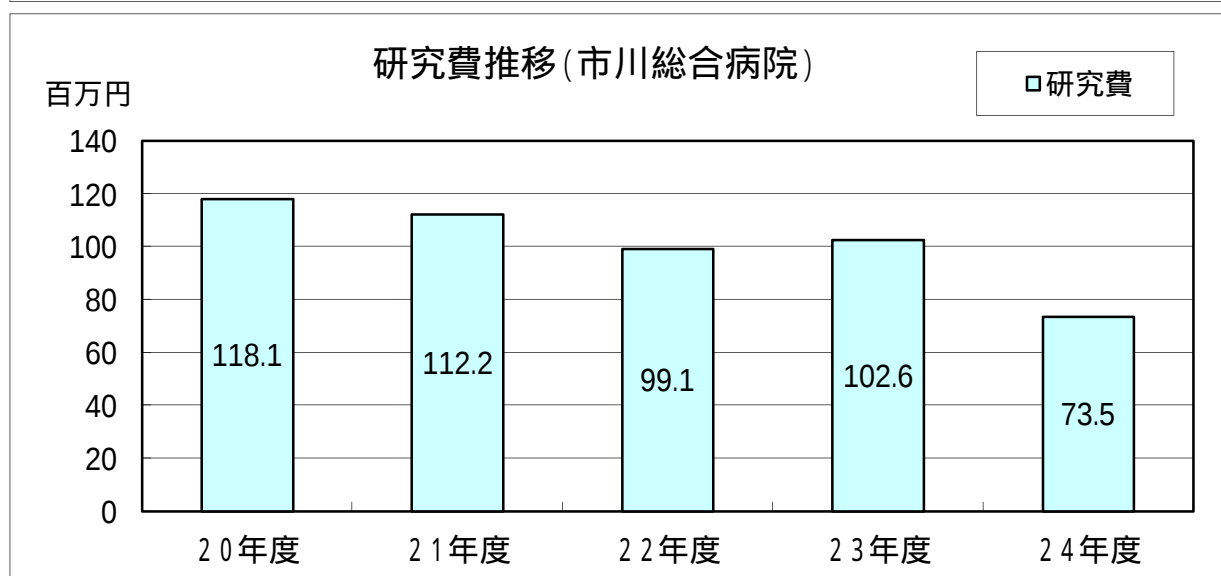
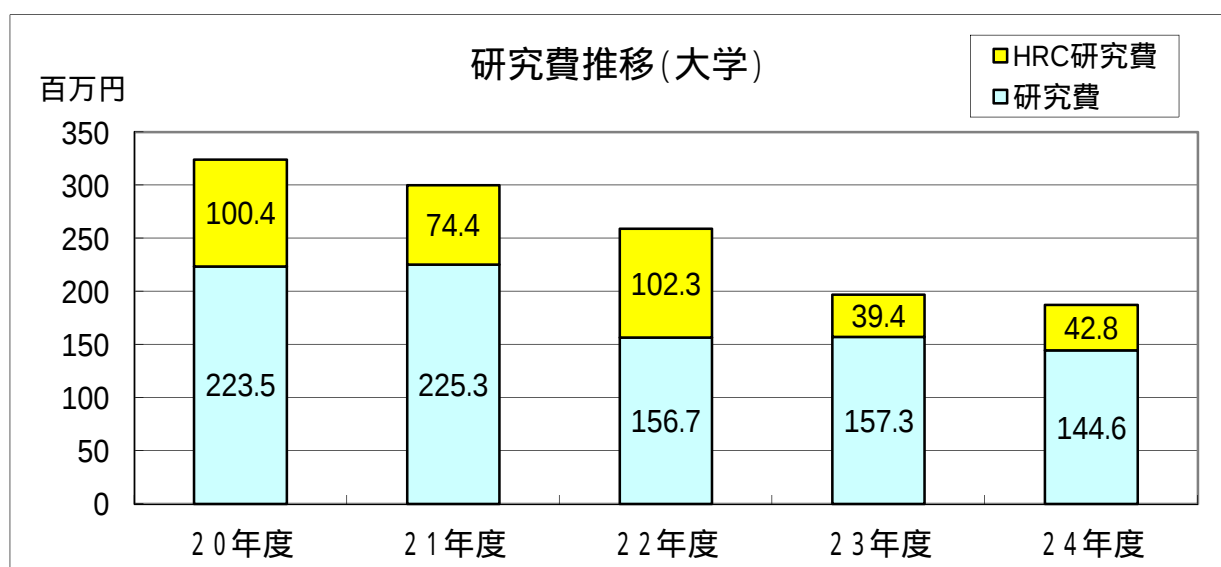
教職員数のグラフは年度ごとの教職員の充足人員を表している。市川総合病院の医療職員が増加しており、それに伴い職員人件費は増加している。



23年度は臨時的な掛金外退職交付金があり退職給与引当金繰入額が減少している。

研究費の推移





(5) 収益事業会計

1. 営業損益の部

新たなテナントビルの取得により、建物賃貸収入、一般管理費、租税公課、減価償却費の予算を補正している。収益・費用ともに補正後の予算に沿った内容となる。

(1) 営業収益

不動産賃貸収入のうち建物賃貸収入は、予算より2,000万円減の3億7,700万円となった。土地賃貸収入は、予算より100万円増の2億4,800万円となった。

(2) 営業費用

一般管理費は、7,500万円となり、予算を1,400万円下回った。租税公課は、対予算500万円減となり、1億3,400万円となった。

減価償却費は、予算より100万円増の5,100万円となった。

2. 営業外損益の部

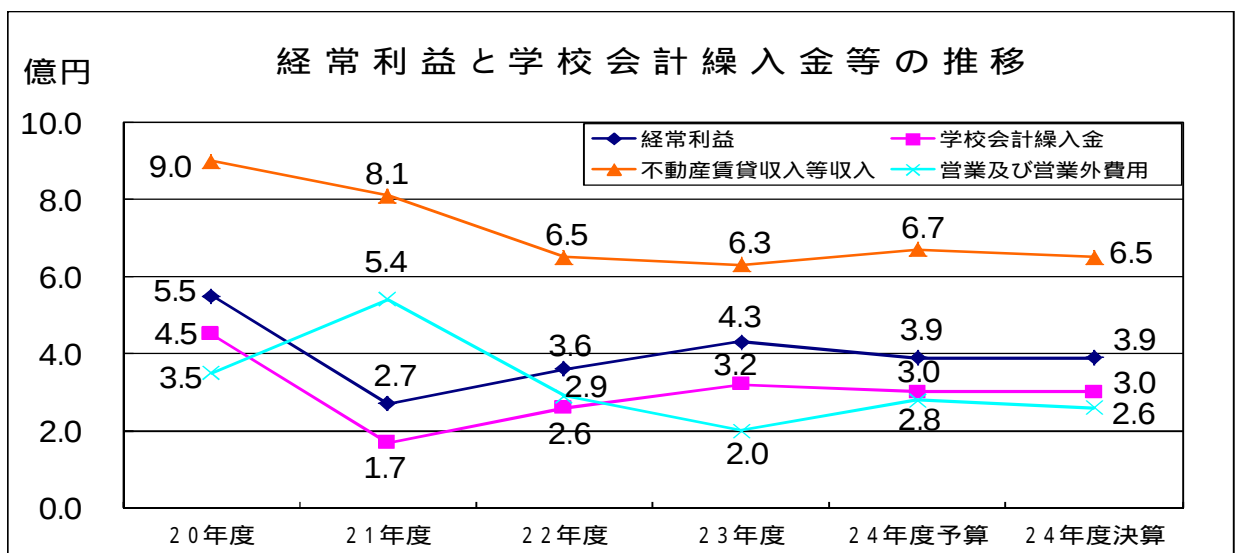
(1) 営業外収益

雑収入は、既存ビルテナントの光熱水費受取分を計上した。

(2) 営業外費用

特記事項なし

以上により経常利益は、3億9,400万円となり、予算より700万円増となった。学校会計繰入金3億円を学校法人会計へ繰入し、法人税・事業税は、見込額で計上した。以上の結果により、当期利益は、2,300万円となり、前期繰越損失を加算すると、当期末処理損失は、9,000万円となり、累積損失は、徐々に縮小している。



収益事業損益計算 - 予算との比較 -

(単位:百万円)

科 目	平成24年度予算	平成24年度決算	差 異	平成23年度決算	増 減
1. 営 業 損 益 の 部					
(1) 営 業 収 益	644	625	19	609	16
不動産賃貸収入	644	625	19	609	16
(建物賃貸収入)	(397)	(377)	(20)	(351)	(26)
(土地賃貸収入)	(247)	(248)	(1)	(258)	(10)
(2) 営 業 費 用	278	260	18	198	62
一般管理費	89	75	14	53	22
租 税 公 課	139	134	5	93	41
(固定資産税)	(73)	(70)	(3)	(78)	(8)
(事業所税)	(1)	(1)	(0)	(1)	(0)
(消費 税)	(15)	(13)	(2)	(14)	(1)
(不動産取得税)	(30)	(30)	(0)	(0)	(30)
(その他の税)	(20)	(20)	(0)	(0)	(20)
減価償却費	50	51	1	52	1
営業利益(1)-(2)	366	365	1	411	46
2. 営 業 外 損 益 の 部					
(1) 営 業 外 収 益	21	29	8	19	10
施設設備利用料	0	0	0	0	0
受取利息・配当金	0	0	0	0	0
雑 収 入	21	29	8	19	10
(2) 営 業 外 費 用	0	0	0	0	0
経 常 利 益	387	394	7	430	36
特 別 損 失	0	0	0	0	0
学校会計繰入前当期利益	387	394	7	430	36
学 校 会 計 繰 入 金	300	300	0	320	20
税 引 前 当 期 利 益	87	94	7	110	16
法 人 税 ・ 事 業 税	77	71	6	81	10
当 期 利 益	10	23	13	29	6
前 期 繰 越 損 失	114	113	1	142	29
当 期 末 処 理 損 失	104	90	14	113	23